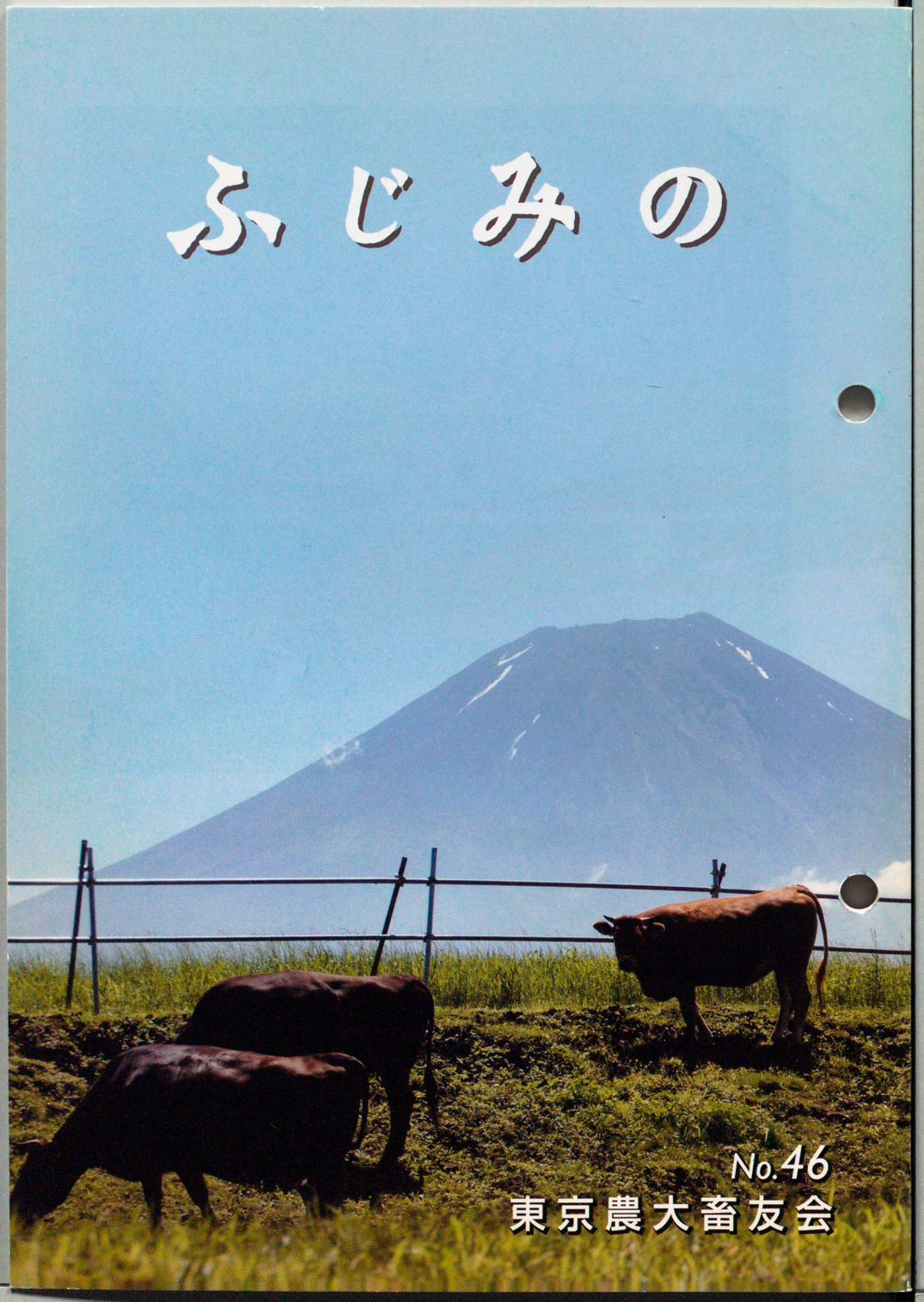
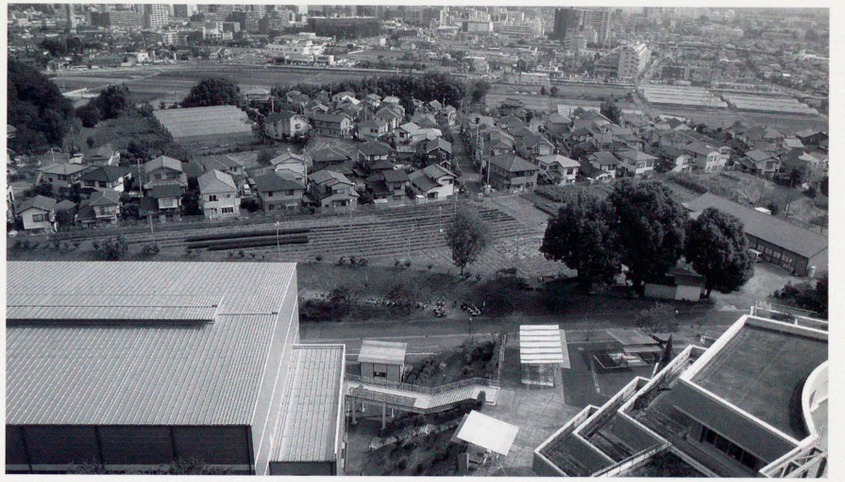
ふじみの

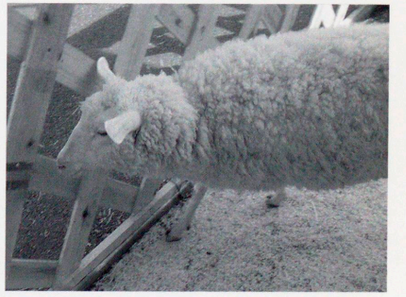


No.46

東京農大畜友会









巻頭言

畜産学科長　門　司　恭　典

本機関誌「ふじみの」は、ここ十数年卒業生と新入生に配布できるよう一年に一度、三月に発行し、今年で第四十六号となります。

先ずは、この三月に卒業・修了される皆さんに心から卒業のお祝いを申し上げます。友人や先生方と語り合い楽しかったこと、単位修得のための試験勉強、研究室での当番、卒業論文の作成と発表会、クラブ活動・収穫祭などで苦しんだことや大いに頑張ったことなどが思い出されることでしょう。くれぐれも健康に留意され、東京農大で培った真の実力を遺憾なく発揮され、社会で活躍されることを期待しています。

新入生の皆さん入学おめでとう。教職員一同は、皆さんの入学を心から歓迎いたします。「元気で」「明るく」「やる気のある」大学生になって欲しいと願っています。一日も早く畜産学科の一員として充実したキャンパスライフを送られることを希望すると共に、畜産人として貢献できる真の知識と技術を身につけ、チャレンジ精神を持ちつづけて欲しいものです

畜産学科は、農学部畜産学科として昨年六十周年を迎えることが出来ました。事業の一つとして、昨年十一月二十八日に創設六十周年記念式典および祝賀会を開催し、多くの卒業生の方々に参加していただき盛会の内に無事終了致しました。これもひとえに先生方や畜友会役員の学生達の協力によるものです。この場を借りてお礼申し上げます。

畜産学科は、前身の専門部畜産科として昭和二十二年千葉県茂原市に誕生し、昭和二十四年「新制大学改革」により農学部畜産学科が設置されています。戦後の食糧難の厳しい時代にスタートし、昭和三十六年には世田谷キャンパスに移転いたしました。その後、高度経済成長と共に畜産業並びに関連産業の順調な発展と、教務職員の充実と設備の拡充などにより、学生数も増加しております。更に平成十二年には、厚木中央農場であった神奈川県厚木市に、新生厚木キャンパスとなった農学部に、農学科と畜産学科が移転し、現在に至っております。この間に、八千百三十九人の卒業生を世に送り出し、国内はもとより、世界中で多彩な活躍をされています。六十周年を契機に、更なる発展を目指し、七十年、八十年、九十年、百年に向け、教員と学生が一致協力して充実したより良い畜産学科になるよう努力しなければならないと考えています。

平成二十二年一月十日

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長　大谷敬直

菜の花の香り漂い、桜の芽もほころぶ今日この頃、今年も「ふじみの」第四十六号を発行することとなりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方及び、学生達の原稿、去年一年間の事業報告をともに記載しています。昨年度は畜産学科創設六十周年という記念した年を迎え、本年度は昨年以上に活気溢れる年になると思います。社会情勢が不安定の中、学生一人一人が今何をどう考えているのか、個々に感じた「夢」、「希望」、また「努力」や「不安」などの文章が載せられています。是非、隅々までご覧頂けたら幸いです。

ふじみの　目次

巻頭言
門司　恭典　1

ふじみの発刊にあたり
大谷　敬直　3

同窓会だより
同窓会会長あいさつ　渡邉　誠喜　6

畜産振興会
東京農業大学畜産振興会　便り　半澤　恵　8

研究室だより
家畜繁殖学研究室　10
家畜飼養学研究室　12
畜産物利用学研究室　14
家畜育種学研究室　16
家畜生理学研究室　18
家畜衛生学研究室　21
畜産マネジメント研究室　23

ふじみの寄稿原稿
畜産学科の学生に望む　渡邉　忠男　26
語学は若いうち　山本　孝史　27
畜友会諸君　半澤　恵　29

集う学友
4年間の大学生活　4年　小倉久美子　31
経験の大切さ　3年　廣瀬　悠人　32
農大の演劇部の中で　2年　渡辺　未来　33
絶対忘れない、君と出会ったあの冬の日　1年　榊原　啓太　34

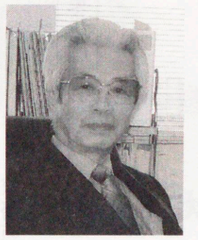
畜友会だより
平成二十一年度畜友会事業報告　35
平成二十年度畜友会決算報告　36
平成二十年度収穫祭特別会計収支決算報告　37
平成二十一年度畜友会予算　38
平成二十一年収穫祭特別会計予算　39
平成二十年度畜友会役員　40
第十回厚木キャンパス収穫祭・第一一八回体育祭事業報告及び結果報告　41
特別講演会　概要　47
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則　48

第十回厚木キャンパス収穫祭・第一一八回体育祭各部門委員長より
へなチョコ委員長の頑張り。　統一本部委員長　3年　大谷　敬直　54
みんなのおかげ　特別企画委員長　3年　吉田　武史　55
みんなで支えあった収穫祭　宣伝隊隊長　3年　生田　結花　56
神輿　神輿隊長　3年　下山　拓哉　57
ありがとう　体育祭委員長　3年　佐藤　晴香　58
みんながいたから…☆　櫓装飾委員長　3年　宮川満里子　59
ART　装飾委員長　3年　金井　祥子　60
人生最大の出来事。　家畜苑委員長　3年　森本　剛司　61

編集後記
3年　三宅　美夏　62



同窓会だより



同窓会　会長挨拶

畜産学科同窓会
会長　渡邉　誠喜

卒業生の皆さん　ご卒業おめでとう御座います。皆さんは四年間、この農大厚木キャンパスにて勉学・実験実習に、クラブ活動にそれぞれ精励され、多くの友人を得られ、人格豊かな立派な畜産技術者として本日、目出度く農学士の学位を取得されました。同窓会を代表して衷心よりお慶び申し上げます。この晴れの日を心待ちされておられたご父母の皆様にも心から祝意を表します。

畜産学科は昭和二十二年四月に専門部畜産科として千葉県茂原市に設置され、昭和二十四年に新制大学令により農学部畜産学科となり、昭和三十四年から三十六年度にかけて世田谷キャンパスへ、そして再度平成十年から十二年度にかけて、厚木キャンパスへ移転し、昨年度、丁度創設六十周年を迎えました。この間の卒業生は約8千名で国の内外において畜産業並びに関連産業の中核となって華々しく活躍されておられます。

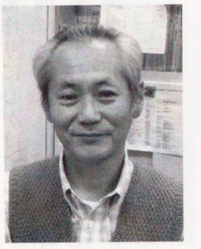
本同窓会は昭和六十三年に畜産学科創設四十周年を記念して、会員相互の親睦と情報交換の場を提供することを第一義とし、併せて畜産学科学生への援助を目的として設立されたものであります。設立趣旨に基いて、発足以来、講演会の開催、会報や会員名簿の発行、そして、優秀卒業論文の表彰や学科畜友会への援助などを行ってまいりました。

昨年十一月二十八日に畜産学科と同窓会の共催のもと創設六十周年記念式典を執り行ない、約三百五十名の卒業生が全国から参集されました。また、学科の要望によりモニュメントを寄付いたしました。このモニュメントは手違いがあり未だ建立されておりませんが、近いうちに本部棟前に設置されるものと思いますので、機会があれば是非ご賞覧ください。新しく会員に加わられた卒業生の皆様にはこの東京農業大学畜産学科で勉学されたこと、そして社会で多くの同窓が活躍していることを誇りとし、実社会に貢献されたく希望致します。

新たに本学科へ入学された学生諸君へ。皆さんは多くの大学農学部がある中、この伝統ある東京農業大学畜産学科を選択され見事、ご入学されたこと心からお喜び申し上げ、大いに歓迎いたします。大学農学部の中にあって畜産学科という名称は希有となりましました。申すまでもなく農学は農業、林業、水産業、畜産業などに係る科学のみにとどまらず、環境、栄養、飢餓、などの問題解決にも係る分野であり、諸難問を解決するための、あらゆる生物の可能性・特性を生かした「いのちの科学」、すなわち、農学は生命の根源を科学する学問分野であり、食糧生産に係る一次産業の科学としての伝統を大切に護りながら開発・進展させるべきであります。畜産学を基盤として生命科学や環境科学などのフロンテイア部分をも開拓すべきです。

農大生の一員となった以上、今後、永い伝統の中で培われてきた農大精神を身につけ、文武両道を旨として勉学とクラブ活動に精励され、生涯の友と成る良き友人と良き恩師を見つけ楽しい学園生活を勝ち取ってもらいたいものです。そして、創意・工夫と自省を念頭に、常に思慮・分別を弁え、何か自分しか出来ない事柄はないか！を模索し、ある課題に出会ったとき、その問題解決に対して熟慮を重ね、自らを武装する理論を構築して、如何なる論客に対しても論戦を挑む自信を身に付けるような習慣作りに心がけてください。

四年後には農大畜産学科に在学していた、という証を示すことが出来るよう、証創りに心がけてください。ご健闘を祈り、私のご挨拶といたします。



東京農業大学畜産振興会　便り

東京農業大学畜産振興会
会長　半澤　恵

東京農業大学畜産振興会が発足して、早十八年が経ち本誌に便りを執筆する時期となりました。そこで「ふじみの」発行にあたり、本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業にについて紹介します。

本会は東京農業大学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・研究の向上に資するために、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。会の運営に遺漏なきよう学内外から本会の役員として理事、監事が選任され、理事会で必要事項が審議決定され、運営にあたっています。一方、役員以外の評議員によって評議員会を組織し、理事会での審議・決定内容について承認を得ることになっています。

具体的な事業内容としては、畜産振興会奨学生としての採用が毎年二～四年次生の各学年から一名ずつ計三名、優秀卒業論文賞を毎年一名、姉妹校留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部支給、さらに関連学会誌に学術論文を掲載・発表した学生、または学会で口頭発表した学生に対する表彰を実施しています。学生による論文発表や学会での口頭発表は、年々増加し、会計担当理事も嬉しい悲鳴を上げるほどになり、益々本会の意義が高まってきています。また、社会の経済不況により納入学費の調達が難しい学生も増えており、これらの学生に授業料などの一時貸与も行っています。

平成九年四月にここ厚木キャンパスが開学し、畜産学科が移転しましたが、本年三月には厚木キャンパス育ちの第九期の学科学生ならびに第七期の博士前期課程大学院生、第四期の博士課程後期大学院生が卒業します。移転から二年間は、教員が世田谷キャンパスにおり、厚木キャンパスは学生のみという状態でした。そこで本会では、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリャマ雌一頭、雄一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜は目下、本学富士畜産農場に繋養されており、黒毛和牛は優秀な二世も誕生するなど、それぞれ実習・実験の材料として活用され、さらに厚木キャンパス収穫祭の家畜苑に参加し、学生はもとより周辺住民にも親しまれています。

また、これら諸事業の成果を取り纏めたものを平成十年より毎年振興会会誌として発行しており、こちらも本年度で12号を数えるまでになりました。

本会設立の契機は振興会会誌創刊号に紹介されているように平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から寄付を賜った原資を基金として設立されましたが、その後、逐次拡大してきた事業を遂行するため、

一　東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金
二　賛助会員会費
三　一般寄付金
四　その他の収入

などを資産に加え賄われています。より一層の充実した事業展開のためには更なる原資が必要です。

卒業生には本会の趣旨をご理解いただき、後輩学生の育成のため是非ご支援を賜りたくお願いいたします。特に本会から表彰を受けた方々は本会の活動を心に留めおいて下さい。

在学生諸君には本会の目的に叶う事象が生じた場合には本会を活用され、充実した学生生活を送られるよう祈念し、振興会便りとします。

研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室は、門司恭典教授をはじめ、桑山岳人教授、岩田尚孝准教授のご指導のもと、大学院生7名、4年生30名、3年生34名で構成されています。

当研究室では、家畜・家禽・カエルを用いた繁殖生理に関する研究に取り組んでいます。

例として、家畜の卵胞・卵子の成熟に関する研究、家禽のストレスとホルモンに関する研究、画期的な分野としてカエルを用いた核移植に関する研究などがあり、その研究成果を学会で発表される先輩方もおられます。

研究室内での活動として3年生は、先輩方の研究の補助を行う中で繁殖学の基本的な知識や実験の技術を身に付けます。また、平行して牛・豚・家禽の飼育管理を行うことで、「現場」での産業動物としての命の在り方を学びます。

主な年間行事は、新入室員歓迎会、論文発表会、収穫祭、研修旅行、スポーツ大会や卒業生送別会などがあり、これらを個性的な室員全員で取り組むことで様々な刺激を受け合いながら充実した研究室生活を送っています。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
飯島　宏美	ウシ前胞状卵胞数の測定方法に関する研究	岩田　門司
生稲　麻希	性ステロイドホルモンがニホンウズラの桑山ストレスによるコルチコステロン分泌に及ぼす影響	岩田
漆間　悠太	卵胞の大きさがブタ卵子の体外成熟中の発育に及ぼす影響	岩田　桑山
大島　幸陽	体外成熟後のブタ卵子の大きさと極体放出との関係	岩田　桑山
太田　美和	FSHがウシ卵母細胞の体外発育に及ぼす影響	岩田　桑山
大森　将茂	前処理液へのアスコルビン酸の添加が凍結精液性状に及ぼす影響	門司　岩田
小澤亜由美	ウシ卵母細胞の体外発育能力とステロイドホルモン産性能との関係	岩田　桑山
小那覇安寿	エストラジオール17βがブタ精子の性状に及ぼす影響	門司　岩田
加賀美　仁	成熟培地がブタ卵子の体外成熟中の発育に及ぼす影響	岩田　桑山
後藤　大也	老齢牛に由来する卵子のカフェイン処理がその後の発生能力に及ぼす影響	岩田　門司
小林　充	核移植のためのアフリカツメガエルの卵子の処理方法の検討	岩田　門司
佐藤　健大	テストステロンがブタ精子の性状に及ぼす影響	門司　岩田
李原さち乃	ACTHが雄ニホンウズラの精巣のテストステロン分泌に及ぼす影響	岩田　桑山
高岡　尚裕	核移植のためのアフリカツメガエルの体細胞の培養方法の検討	岩田　門司
高橋　誠之	体外成熟後のブタ卵子の大きさがその後の発生能力に及ぼす影響	岩田　桑山
レイン　恵	アミノ酸がブタ卵子の体外成熟中の発育に及ぼす影響	岩田　桑山
田崎　秀尚	リポフェクション方法を用いたRNAi法の確立	岩田　桑山
田中ゆき乃	雌ニホンウズラの性転換に関する研究	岩田　桑山
朝永　圭祐	繁殖ステージが卵管の精子接着性に及ぼす影響	岩田　門司
成田竜太郎	ニワトリ凍結精液作成時における耐凍剤・凍結方法の検討	桑山　岩田
根本　大	ウシ卵母細胞の体外発育能力とコネキシン43の発現量の関係	岩田　門司
野間口俊二	凍結時におけるブタ精子の定温保持時間がその後の精子性状に及ぼす影響	門司　岩田
林　暁子	精子と透明帯の共培養条件への単糖類の添加が透明帯接着精子に占めるY染色体を有した精子の割合に及ぼす影響	岩田　門司
前川　拡美	コルチコステロンがニホンウズラの精巣のテストステロン分泌に及ぼす影響	桑山　岩田
松井　康史	ブタ精子の凍結時に用いるストローのサイズが精子性状に及ぼす影響	門司　岩田
屋敷　知宏	異なるプローブを用いたウシ精子のY染色体に対するin situ hybridization方法の比較	岩田　門司
吉川　友章	cAMPがブタ卵子の体外成熟中の発育に及ぼす影響	岩田　桑山

吉澤　涼太　雌岐阜地鶏のBrood Patch形成と胸部皮下体温との関係　桑山　岩田

吉中　里美　プロゲステロンがブタ精子の性状に及ぼす影響　門司　岩田

坂井　佑太　ウシ凝集胚の作製効率に及ぼすフィトヘマグルチニンの効果　岩田　桑山

家畜飼養学研究室

本研究室は牛・豚・鶏が健康に生活しつつ、さらに各家畜・家禽から乳・肉・卵などの動物性生産物を効率よく作り出していくために、どのような飼料（飼料学）を、どれくらい（動物栄養学）、どうやって与えるか（家畜管理学）を、常に追求しています。さらに飼料の最終形態である糞尿が環境に及ぼす影響（畜産環境保全論）についても研究を行っています。

研究は祐森誠司教授、池田周平教授、黒澤亮助教の指導のもと進めており、成果は日本畜産学会、日本養豚学会、日本家畜管理学会、日本畜産環境学会、日本ペット栄養学会等の学会大会に毎年発表されています。

研究室の活動は、春の新室員歓迎会と富士農場での専攻実習に始まり、飼料成分分析実験、夏の家畜管理実習（学外）、秋の収穫祭への参加（模擬店：牛・豚・鶏の串焼き、文化学術展：二〇〇九年度　私は鹿になりたい）、冬の畜産関連諸施設（千葉県畜産総合センター）の見学を兼ねた研修旅行、卒業論文発表会、卒業生さよならパーティー、年二回の大掃除に納会と盛り沢山です。この様な活動を通して室員の意思の疎通を図るとともに団結を深めています。先生方の指導は時に厳しいこともありますが、学生の相談には親密に応えてくださり、厳しさの中にもやさしさを感じます。室員は皆仲良く、研究室での時間を楽しく過ごしています。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
青木　文香	ラットの歩行運動が熱発生量に及ぼす影響	池田　黒澤
秋沢　克哉	寒冷下で飼育する子牛へ脂肪酸カルシウム及びL-カルニチンの給与が成長に及ぼす影響	佐藤　祐森
安部　佑美	ダッチ種幼兎のメチオニン、トレオニン要求量の推定	池田　祐森
石塚　千裕	異なる量のL-カルニチン給与が泌乳量と血中カルニチン濃度に及ぼす影響	佐藤　祐森
今井　隆志	ブロイラーの行動と熱発生量の関係	池田　黒澤
上里富士江	寒冷下で飼育する子牛へ脂肪酸カルシウム及びL-カルニチンの給与が血中脂肪酸量およびカルニチン量に及ぼす影響	佐藤　祐森
小倉久美子	家畜糞へのペパーミント精油希釈液の噴霧による害虫飛来抑制効果のの検討	野口　池田
尾内　泰穂	脂肪酸カルシウム及びL-カルニチンの給与が寒冷下で飼育するラットに及ぼす影響	池田　祐森
加藤　早希	茶屑ペレットの給与が金華豚の肉質に及ぼす影響	祐森　池田
金谷　圭祐	ハーブ抽出液の噴霧による放牧場内での害虫飛来抑制効果の検討	野口　池田
鎌田みなみ	採卵鶏の行動と熱発生量の関係	池田　黒澤
桑名　侑子	納豆添加ヨーグルト給与が子豚の成長に及ぼす影響	祐森　池田
小室　有穂	未活用資源の飼料価値評価	佐藤　黒澤
桜井　萌絵	牛糞への害虫飛来抑制に対するハーブ抽出液と牧草抽出液の比較	野口　池田
高橋　寛充	日本白色種幼兎のメチオニン、トレオニン要求量推定	池田　祐森
畠山　満正	異なる量のL-カルニチン給与が子牛の成長及び血中カルニチン濃度に及ぼす影響	佐藤　祐森
原田　翔	盲腸切除ラットへの短鎖脂肪酸給与が成長に及ぼす影響	池田　祐森
春山つば紗	納豆添加ヨーグルト給与が子豚の免疫能に及ぼす影響	祐森　池田

宮国　梢　茶屑添加サイレージ品質に関する研究　佐藤
池田

谷貝真理佳　利用前敷きワラの水洗いがアンモニア揮散に及ぼす影響　池田
祐森

吉田　睦　納豆添加ヨーグルト給与がブロイラーの成長に及ぼす影響　黒澤
池田

高野　雅之　茶屑ペレットの給与が金華豚の血液性状に及ぼす影響　黒澤
祐森

濱　瑞穂　納豆添加ヨーグルト給与がブロイラー粉から揮散するアンモニア臭気に及ぼす影響　黒澤
池田

武藤　寛卓　茶屑ペレットの給与が金華豚の成長に及ぼす影響　祐森
池田

勝本　裕也　野生シカ肉成分の季節変動について
―ペットフード利用における基礎調査―　池田
祐森

甲斐　有　有害駆除されたイノシシ肉の一般成分　祐森
池田

畜産物利用学研究室

本研究室は室長の鈴木敏郎教授をはじめ、多田耕太郎准教授のご指導のもと、大学院生1名、大学4年次生34名、3年次生34名で構成される室員が、それぞれ活発に日々の研究活動などに取り組んでいます。

具体的には、乳・肉に含まれる各成分の物理・化学的特質ならびに栄養・生理学的機能特性を品種、個体、分子レベルで追究したり、その研究成果を食品成分の機能性・保存性の改良、製品製造工程の改良や新しい加工法の開発などに応用するための研究を行なったりしています。

年間の主な活動としては、週一回行われるゼミナールの他、夏休みを利用して行う世田谷キャンパスでの乳酸飲料製造実習、ハム・ベーコン等の製造と収穫祭での販売、卒業論文発表会、新入生歓迎会、前・後期納会、研修旅行、卒業生送別会などがあります。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
大貫　義文	超高圧処理による畜肉タンパク質の加圧ゲル形成に関する研究	鈴木
亀田　卓司		多田
椎名　一樹	乳清タンパク質のゲル形成に与える超高圧処理の影響に関する研究	鈴木
古市　篤史		多田

金子　絵美　卵黄・卵白のゲル形成に与える超高圧処理の影響に関する研究　鈴木
向津くみ子　多田

酒井　将史　豚皮を用いたスナックの開発　鈴木
多田

柳沼　瑶一　超高圧処理が生ハムの品質に与える影響に関する研究　鈴木
多田

海野　晃　超高圧処理を用いた食肉の殺菌に関する研究　鈴木
多田

大坪　佳奈　超高圧処理を利用した減塩ソーセージの開発　鈴木
鈴木ひかり　多田

河村　厚志　超高圧処理を利用した鶏肉ソーセージの開発　鈴木
多田

中野　敬祐　酵母エキス成分中の発色寄与成分の検索に関する研究　鈴木
本山　友輔　多田

大貫　正輝　ソーセージの発色効果に与える酵母エキスの影響に関する研究　鈴木
佐野　祐司　多田

小塚友里恵　植物性乳酸菌を用いたヨーグルトの開発　鈴木
須藤　奈穂　多田

清水　香那　混合乳酸菌を用いたヨーグルトの開発　鈴木
小名　智史　多田

潮田　里美　豆乳を用いたヨーグルトの開発　鈴木
坂田　真美　多田
根本　綾

笹川　貴史　畜肉副産物を用いた肉醤の開発　鈴木
加藤　千早　多田

石井　佑治　内臓などを利用した肉かまぼこの開発　鈴木
谷口　敦史　多田

白鳥　麗子　機能性成分を生産する乳酸菌を用いた畜産加工品の開発　鈴木
加藤　彩　多田

井上　祐　生ハム貯蔵中の脂質の変化に関する研究　鈴木
多田

大野　拓也　乳製品中に含まれるトランス脂肪酸含量に関する研究　鈴木
水口　碧衣　多田

高橋　雄也　エミュー肉の肉質に関する研究　鈴木
多田

川本　将文　農大ブランド肉鶏の肉質に関する研究　鈴木
多田

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、細胞遺伝学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、花田博文教授をはじめ、野村こう講師、高橋幸水助教の指導の下、大学院生5名、4年生31名、3年生38名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては家畜（ウシ・ヤギ・スイギュウ）、家禽（ニワトリ）を供試動物として、細胞遺伝学的研究、毛質や毛色に関する研究、血液蛋白型支配遺伝子情報の解析、マイクロサテライトマーカー・ミトコンドリアDNA遺伝子情報による系統遺伝学的研究、品種分化に関する研究などが行われています。

研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫際への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われているゼミ、定例室員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとどまらず、先生方や院生、学生により学会発表などが精力的に行われています。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名		論文題目	指導教員
芦沢	友喜乃	頭骸骨画像情報解析によるニワトリの品種分化に関する研究	高橋 花田
北山	静香	頭骸骨画像情報解析によるニワトリの品種分化に関する研究	高橋 花田
小池	淳子	頭骸骨画像情報解析によるヤギの品種分化に関する研究	高橋 花田
雨宮	祐次郎	頭骸骨画像情報解析によるヤギの品種分化に関する研究	高橋 花田
安達	美由紀	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	野村 花田
佐藤	花衣	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	野村 花田
甲斐田	浩司	雄ヤギにおける季節繁殖関連遺伝子の多型解析	野村 花田
西村	光平	雄ヤギにおける季節繁殖関連遺伝子の多型解析	野村 花田
千木	あさみ	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究	野村 花田

森田	広人	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究	野村 花田
陳	容昊	ヤギの被毛形質に関する遺伝学的研究	野村 花田
野中	雅史	ヤギミトコンドリアDNAタンパク質コード領域の解析	野村 花田
上田	昌美	ヤギミトコンドリアDNAタンパク質コード領域の解析	野村 花田
赤津	達郎	ミトコンドリアDNA D-loop領域に基づくブタの系統遺伝学的研究	野村 花田
小池	祐輝	ミトコンドリアDNA D-loop領域に基づくブタの系統遺伝学的研究	野村 花田
野口	大海	ミトコンドリアDNA D-loop領域に基づくブタの系統遺伝学的研究	野村 花田
鈴木	健太	マイクロサテライト多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究～特にインド・バングラデシュ産牛について～	高橋 花田
藤永	和巳	マイクロサテライト多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究～特にインド・バングラデシュ産牛について～	高橋 花田
寺田	季央	マイクロサテライト多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究～特にインドネシア産牛について～	高橋 花田
沼田	千明	マイクロサテライト多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究～特に韓牛について～	高橋 花田
古幡	創	マイクロサテライト多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究～特に韓牛について～	高橋 花田
三輪	拓哉	体細胞クローン牛の染色体解析	花田
秋山	悠	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析	野村 花田
駒井	哲也	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析	野村 花田
岩渕	亜紀	スイギュウ血清トランスフェリン遺伝子の多型解析	野村 花田
小林	祐貴	スイギュウ血清トランスフェリン遺伝子の多型解析	野村 花田
前田	博記	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	高橋 花田

山口　理子　マイクロサテライトDNA多型情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究　花田

朝原　理絵　ミトコンドリアDNA多型情報に基づくマダガスカル在来鶏の系統遺伝学的研究　高橋　花田

笠川　衣里　ミトコンドリアDNA多型情報に基づくバングラデシュ在来鶏の系統遺伝学的研究　高橋　花田

藤嶋　太郎　マイクロサテライトDNA多型情報に基づくバングラデシュ在来鶏の系統遺伝学的研究　高橋　花田

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、吉田豊講師、原ひろみ講師のご指導のもと、大学院生5名、学部四年次生33名、学部三年次生35名で構成されています。

本研究室では、家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしており、①ウマに関する研究、②ニホンウズラ・ニワトリに関する研究、③ウシに関する研究に大きく分けられます。

①においては、コンディションの変化による血液性状の変動、赤血球膜タンパク質の遺伝子に関する研究などをしています。②においては、抗原に対する抗体産生能・アポトーシス・モノクローナル抗体といった免疫の基礎となる研究、主要組織適合遺伝子複合体（ＭＨＣ）の分子遺伝学的・免疫学的解析、ＴＬＲ遺伝子の解析、ＨＳＰ７０，９０遺伝子の解析、腸内細菌と血液性状の関連解析、および不死化細胞の染色体解析などを行っています。③においては、ビタミンＡ代謝における諸所の現象に関する研究を行っています。

本研究室における日々の活動を紹介すると三年次には生理学に関する基礎的な実験の技術を身につけるために講義・ゼミ・実験実習を行うとともに、実験動物の飼育管理、院生・学部4年生の卒業論文の補助として協力しています。四年次には前述の研究のほか各個人が興味を持ったテーマを先生方との論議により決定し、卒業論文研究を行っています。院生は、自分の学位論文のテーマに対して日夜研究に精励し、その結果を学会などに発表しています。

年間の主な行事として、新入生歓迎会、収穫祭文化学術展・模擬店、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、年二回の納会、実験動物・家畜舎大掃除、週一回のゼミナール等があります。

なお、平成二十一年度の卒業論文題目は以下のとおりです。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
一万田さとみ	子牛の生体防御機能改善プログラムの構築レチノール・βラクトグロブリン複合体の産生制御による乳中免疫グロブリンの取り込みに関する研究	半澤　吉田　原
大岡　理恵	皮脂腺異常マウスの原因遺伝子探索と疾患モデル樹立	半澤　原
佐原　紫織	子牛の生体防御機能改善プログラムの構築レチノール・βラクトグロブリン複合体の産生制御による乳中ビタミンＡの取り込みに関する研究	半澤　吉田　原
佐野　浩之	ウズラ肝上皮系由来不死化細胞株(QHEC4)のinsulin応答性の解析	半澤　原
河合美江子	ウズラ肝上皮系由来不死化細胞株(QHEC1)のinsulin応答性の解析	半澤　原
福原　秀幸	ニホンウズラAおよびB系の血球性状の比較	半澤　原
中台　昭紀	ニホンウズラY系の血球性状と補体力価測定	半澤　原
竹田　詩織	成熟ニホンウズラY系における腸内細菌の培養および16SrDNAによる同定	半澤　原
佐伯かほり	ニホンウズラにおけるコクシジウム感染が補体力価および腸内細菌に及ぼす影響	半澤　原
松浦　弘和	ニホンウズラMBL遺伝子の塩基配列の解析	半澤　原
菅谷　祥多	ニホンウズラDEFB遺伝子の各種臓器におけるmRNA発現の比較	半澤　原
桑原　拓也	ウズラ偽好酸球からのβディフェンシンの精製およびその抗菌活性	半澤　原
塚本　理沙	ニホンウズラ幼雛の各種臓器におけるTLR2の免疫組織染色による発現解析	半澤　原
鈴木　隼也	ニホンウズラTLR4遺伝子の各種臓器におけるmRNA発現の比較	半澤　原

森嶋　大悟　ニホンウズラ TLR4 に対する抗体作製および各種臓器の免疫組織染色による発現解析　原
加藤　麻衣　ニホンウズラ TLR1 遺伝子の塩基配列の解析　半澤　原
高田慎之介　ニホンウズラ TLR15 遺伝子の各種臓器における mRNA 発現の比較　半澤　原
青木　隆太　ニホンウズラ HSF3 遺伝子（CjHSF3）の多型解析　半澤
竹村　俊　ニホンウズラ熱ショックタンパク質 70 遺伝子（CjHSPA2）の 3'UTR の多型解析　半澤
盛岡　朋恵　ニホンウズラ HSP90*a* 遺伝子（CjHSP90*a*）の選択的スプライスによる転写産物の塩基配列の解析　半澤
川村　歩　ニホンウズラ CD3 と遺伝子の塩基配列の解析　半澤
朝治　桜子　ニホンウズラ主要組織適合抗原複合体クラス I 領域のハプロタイプ間比較　半澤
野口　和之　ニホンウズラ主要組織適合抗原複合体クラス I 領域に座位する TAP 遺伝子の多型解析　半澤
田辺　義高　ニホンウズラ BTN2 遺伝子座周辺の構造解析および多型解析　半澤
涉　皓貴　ニホンウズラ BTN2 遺伝子座の多型解析　半澤
小澤くらら　ニホンウズラの TRIM39.2 遺伝子の多型解析　半澤
井上千紗規　ニホンウズラ ODF（CjODF3）の遺伝子座数多型（CNV）に関する基礎的研究　半澤
大尾　圭佑　競走馬の運動内容および状態別における赤血球浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動　半澤
和田真由香　ウマ赤血球系細胞に発現する KCL 輸送体遺伝子 SLC12A6 および SLC12A7 の塩基配列の解析　半澤
柳原　達也　ウマ赤血球系細胞に発現するアミノ酸輸送体遺伝子 SLC family の ORF の多型解析　半澤
増田　快　ウマ赤血球系細胞に発現する SLC1A5 および SLC43A1 の ORF の多型解析　半澤
宮崎真理子　ウマ赤血球系細胞に発現する GSH 関連酵素遺伝子の ORF の多型解析　半澤
鈴木　健之　メンヨウ赤血球に発現するグルタチオン関連酵素遺伝子の塩基配列の解析　半澤

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室は、室長の渡邊忠男教授をはじめ、山本孝史教授、村上覚准教授のご指導の下、大学院生一名、四年生三十四名、三年生三十七名で構成されています。

室員は各自で希望する対象動物別に、実験動物班、牛班、豚班、鶏班の四班に分かれ、日々の世話等も通しながら、各家畜・家禽の疾病とそれに対する診断、予防法及び環境衛生等の研究を行っています。

家畜衛生は、家畜・家禽の生命を脅かす健康阻害因子除去し、生命の延長をはかり、且つ生産性の向上をはかることを目的とされてきましたが、最近では「動物の福祉」という観点から、家畜伴侶動物（コンパニオンアニマル）の衛生管理法等、家畜や家禽以外の動物もその対象となってきています。

研究室の主な年間の行事として、新入生歓迎会、研修旅行、収穫祭では模擬店で「しし汁」を出店し、文化学術展にも出展、年末には餅つき、慰霊祭、その他に月二回の定例会や年二回の納会等があり、これらの行事を通して室員は団結を深め、各々が目的意識を持って有意義な研究及び研究室活動を行っています。

なお、平成二十一年度の卒業論文の題目は次の通りです。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
大久保秀彦	食肉センターにおける豚係留所内サルモネラ汚染実態調査	村上　山本
大桃　舞子	肥育豚の試験殺前前後における Bacterial Translocation の調査（肝臓、脾臓、肝門脈血におけるグラム陰性菌の Bacterial Translocation）	村上　山本
奥谷真季子	浮腫病多発農場の健康豚より分離された大腸菌の薬剤感受性	山本　村上
小田　暁載	羊の口腔内マイコプラズマについて	山本　渡邊
勝又　渚	富士農場飼養鶏におけるサルモネラ対策	渡邊　山本
門永　将来	犬の皮膚の性状細菌膿に関する研究	山本　渡邊
工藤和加菜	トランス脂肪酸含有マーガリンが大腸炎の腸内細菌フローラに及ぼす影響	渡邊　山本
國吉　健	ダチョウの糞便内寄生虫卵に対する内菌の有用性	渡邊　村上

小林　貢　新しい肉用ブランド鶏の検討　渡邊　村上
桜庭　裕子　食肉センターにおける枝肉のサルモネラ及び黄色ブドウ球菌の実態調査　村上　山本
篠崎　佳樹　浮腫罹患豚より分離された大腸菌の薬剤感受性　村上　山本
清水　圭子　食肉センターに搬入された豚の鼻腔におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の検査　村上　山本
鈴木　巳絵　マリンフードの投与がニワトリコクシジウム感染に対する効果　渡邊　村上
鈴木　裕之　養豚場における年齢別消化管内寄生虫保有状況について　渡邊　村上
関　由美江　ペットフードの真菌汚染状況と対策　渡邊　村上
高橋もも子　食肉センター搬入豚における内臓病変から家畜福祉を考える　村上　渡邊
田中　和江　食肉センター搬入牛における内臓病変から家畜福祉を考える　村上　渡邊
芹澤　萌　ウサギの内部寄生虫に対する健康管理　渡邊　村上
矢ケ崎正幸　給餌法の違いが犬の血液性状に及ぼす影響　渡邊　村上
山内　遥　スキンケアクリームが豚の皮膚の体表温度に及ぼす影響　渡邊　村上
吉川　晶子　ネコの口腔内におけるマイコプラズマ　山本　渡邊
渡辺　春臣　肥育豚の試験殺前後におけるbacterial translocationの調査（腸管膜リンパ節における山本グラム陰性菌のbacterial translocation）　村上
渡辺　涼　肥育豚の試験殺前後におけるbacterial translocationの調査（十二指腸、空腸、回腸、盲腸および結腸の好気性腸内細菌数の変動）　村上　山本
小谷　啓　飼料および土壌由来A.flavusの分布とアフラトキシン産生性　渡邊　村上
寺田　幾江　イヌの口腔内に分布するマイコプラズマについて　山本　渡邊
遠矢　真理　豚の大腸菌に関する研究　山本　村上
中山　薫子　肥育豚の試験殺前後におけるBacterial Translocatinoの調査（肝臓、脾臓、肝門脈血におけるグラム陽性菌のBTについて）　山本　村上
西川　順葉　羊皮膚の細菌叢について　山本　渡邊
玻名城　準　飼料及び環境真菌の生態と生物活性　渡邊　村上
福島　雅文　回虫保有における排泄虫卵の経時的観察　渡邊　村上
本多　正隆　肥育豚の試験殺前後におけるendotoxin translocationの調査　村上　山本
松本　知夏　教育機関における愛玩動物に対する意識調査　渡邊　村上
宮内　悠希　堆肥発酵過程における菌の消長　渡邊　山本
森　雅人　長期保存ウイルスの継代法の検討　渡邊　村上

畜産マネジメント研究室

畜産マネジメント研究室は小栗克之教授と信岡誠治准教授の指導のもと、平成21年度は三年次生21名、四年次生23人の態勢で研究室活動を展開しています。畜産（肉牛・酪農・養豚・養鶏）における経営経済問題を中心として、生産から流通・販売・消費などの諸過程と関連付けながら課題に取り組んでいます。

とくに、当研究室はわが国の畜産の将来を担う後継者および就農者を養成すること視野においていることからマネジメント演習では本の輪読や畜産ソフトの演習を実施し、さらに畜産経営のプロを育てるべくできるだけ畜産経営の現場にでかけ実践的な経営を学んでいます。また、4年次生は卒論作成に向けた演習などを実施しているほか、研究室の研修旅行では栃木県の南ヶ丘牧場、福島県の家畜改良センター、茨城県の瑞穂農場を訪ね見聞を広めています。また、消費者団体のシンポジウム、畜産フードフェア、農林水産省の飼料米シンポジウムなどへも参加し研鑽を重ねています。

研究活動は現場の畜産経営者が抱えている問題を一緒に考え、具体的な解決策を見いだしていくことを主眼として取り組んでいます。具体的には、昨今の配合飼料価格の高騰に対処するとともに畜産物の安全性と高付加価値化を図るため飼料米の研究に取り組んでいます。21年度は厚木農場（棚沢）の水田で30アールの飼料米の生産を行い、単収は一千五十五キロ（モミ重量）を達成しました。研究室の

実験畜舎では羊、名古屋鶏、採卵鶏、ブロイラー（はりま、たつの、ハーバード種）を飼養していますが、飼料米を自分たちで配合して給与しています。とくに、当研究室の研究内容を赤松農林水産大臣、山田農林水産副大臣、郡司農林水産大臣、佐々木農林水産大臣政務官、船本農林水産大臣政務官、井出農林水産事務次官、佐々木農林水産技術会議事務局長、本川生産局長などが大勢の報道陣を連れて視察にこられました。研究室の全員で応対をし、飼料米の栽培状況や家畜への給与状況を説明し、飼料米の試食や飼料米を給与した卵を持ち帰ってもらいました。大学本部からも大澤学長をはじめとして役員の方々が総出で応対をしていただきました。

なお、平成21年度の卒業論文の題目は次のとおりです。

平成二十一年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導教員
石井　敏貴	現代における観光牧場の集客性向上	小栗　信岡
臼井　英祐	受精卵移植による和牛子牛生産の経費と収益性	小栗　信岡
今玉利広貴	ＳＰＦ豚の現状と今後のあり方	小栗　信岡
岡本　浩彰	日本競馬と海外競馬の比較と今後の両者の方向性について	小栗　信岡
太田　洋平	ばんえい競馬の存続可能性の検討	小栗　信岡
加藤　竜太	低フィチン酸含有米給与が鶏糞に及ぼす影響	小栗　信岡
川上　孝昌	若年層消費者の飼料米に関する意識調査	小栗　信岡
興野　陽平	乳牛管理にける畜舎構造の比較	小栗　信岡
木村　隆人	飼料米の現状と今後の展望について	小栗　信岡
木村　優	アニマルウエルフェア畜産について	小栗　信岡
久保田　聖	肉用牛肥育経営と飼料給与方式について―長野県Ｋ牧場の事例を中心として―	小栗　信岡
斉藤　琢	飼料米の生産コストについて	小栗　信岡
鈴木　淳也	酪農経営における飼養形態の違いによる経済性の比較	小栗　信岡

下田　淳裕	牛乳の価格決定と地域別差異について	小栗　信岡
田村　知香	畜産におけるネズミ駆除	小栗　信岡
野末　大造	日本在来馬の保存と利活用に関する研究	小栗　信岡
浜田　玲佳	鶏への飼料米給与の有無による排泄物の違い	小栗　信岡
深澤隆太郎	日本の食生活の変化による米の需給と今後のあり方	小栗　信岡
藤田　一基	食料残渣を利用した資源循環型社会の構築について	小栗　信岡
藤井　紀之	ブロイラーにトウモロコシと飼料米を給与した結果の比較	小栗　信岡
守田いずみ	神奈川県における養豚の発展と課題	小栗　信岡
森田　晃子	飼料米混合飼料給与後の山羊乳の変化	小栗　信岡

ふじみの寄稿原稿

畜産学科の学生に望む

家畜衛生学研究室教授
渡邊忠男

昭和45年4月1日に畜産学科の教員（無給副手）としてスタートして丸40年、平成22年3月31日を以て定年退職します。長い間有り難うございました。

定年に当たって畜友会から「ふじみの」に何か書いてほしいと依頼がありましたので、最後の勤めと思い、重い筆を執りました。

畜産学科の畜友会は私の学生時代（昭和38年～42年）にはすで設立されておりました。当時から畜友会は畜産学科学生と教職員の親睦団体として活動しており、私自身も会の一員として、3年次に総会の議長を務めたことと、畜友会主催で千葉県にあるマザー牧場の見学をしたことを覚えています。

教員生活40年間、常に考え努めてきたことは、学生との「接し方」として出来る限り同じ目線で、付き合うということでした。しかしながら30歳代までは比較的体力的にも考え方でも抵抗無く出来ましたが、40歳代以降は体力的にきつくなり、50歳代後半以後は、体力の低下は勿論、考え方にも大きなギャップを感じるようになりましたので、各種学生が企画した行事や懇親会等に出来る限り参加して学生との会話の場を持つように努めてきました。

畜産学科教員の立場として、本学の畜産学科で学ぶ学生諸君に望むことは、飼育する動物（産業動物や身近な愛玩動物）を健康に育てることが出来るようになる為の努力をしてほしいと云うことです。十分な知識の基に裏付けられた飼養管理で異常（疾病等）を出さないことに心がけて下さい。このことは簡単なようで非常に難しく、単に教科書通りに飼養すれば良いというものではなく、飼育している動物の特性を理解して、よく観察し、絶えず動物の身体に触れてコミュニケーションを取ると同時に各個体の異常をなるべく早く見つけて対処することにより、健康を維持することが出来、産業動物ではその生産性の向上に、愛玩動物ではより長く飼育が可能となります。

最近気がついたことは、動物を生き物としてではなく、単なる物体として扱っていると思われるような学生が見受けられることです。各研究室で動物の飼育は当番制になっているようですが、飼養管理の申し送りが不十分で、動物の異常を見過ごしているような管理が行われていることが時々感じられました。畜産分野でもその飼養管理について動物愛護の観点が厳しくなってきていますので、十分な注意が必要と思われます。

ほとんどの学生が動物が好きだからと入学してきたのですから、卒業後には「さすがに農大畜産学科の卒業生は、動物のことが良くわかっているので飼養管理を任せられる」と云われる人材で有ってほしいと願っています。

最後に、動物は話すことが出来ませんのでよく観察し、触れて動物からの呼びかけを見落とさないようして下さい。

（記　平成22年2月1日）

語学は若いうち

家畜衛生学研究室教授
山本孝史

私が30歳代後半の頃、韓国で開催されたある会議に出席した時のことである。全南大学のK教授と1週間、行動をともにした。彼は以前私がいた大学の研究室に留学生として在籍しており、旧知の間柄であった。会議は韓国の各地で開催され、移動は貸し切りバスであったが、長時間に亘ることが多かったので、この時間を利用してK教授にハングルを教えてもらうことになった。ハングル（訓民正音）は、李氏朝鮮の第4代国王世宗が、朝鮮語を表記するため若い学者たちに命じて作らせた表音文字であり、きわめて合理的な構造で、誰でもすぐ使えるように工夫されているというくらいのことは受験の世界史の知識として知っていたが、実際の文字については全く白紙であった。で、この時初めてハングルは、日本語をローマ字表記するように、子音と母音の組み合わせで一つの音を表すことを教わった。なるほど合理的にできた文字であり、順調に理解していったが、「カ」の文字でつまずいてしまった。今の日本語は、清音（カ）と濁音（ガ）の2種類しかないが、朝鮮語では激音および濃音と言われる「カ」があり、それぞれ「カハ」、「ツカ」のように発音するという。しかし私にはその違いが全くわからなかった。K教授は、この文字は「カハ」、こちらの文字は「ツカ」と何度もゆっくりと発音してくれるのだが、私にはみんな同じ平音の「カ」と同じに聞こえてしまうのである。彼はもどかしそうに、しかし辛抱強く、何度も何度も発音してくれたが、何度聞かされても同じであった。終いにはK教授は泣き出さんばかりになったほどである。表音文字であるから発音がわからなければお手上げである。かくてバスの中の勉強会は中止になってしまったが、このとき私は、「語学は若いうち」という言葉を実感したものであった。

それから20数年後、必要に迫られ、それまで全く知らなかったスペイン語を勉強し始めた。日本語はもちろんのこと、英語ともかなり異なる文法体系のためか、最初はまるで暗号を勉強しているような気分であった。しかし、スペイン語は朝鮮語のような難しい発音はなく、RとLの区別以外は日本語とほぼ同じであるため発音に苦しめられることはなかった。最初は暗号のように感じられた文法も、慣れてくると言葉として受け入れられるようになり、年齢からくる記憶力の衰えは別として、初めてハングルを教えてもらったときのような「語学は若いうち」をあまり感じなくなった。そしてスペイン語の必要がなくなった今でも楽しみながら、いわば趣味として勉強が続けられている。このような体験から、私は「語学は若いうち」は、「発音」に関してはその通りであるが、文法の理解、文章の読解や作文にはあまり当てはまらないのではないかと考えている。

しかし、しかしである。これからは外国語は読めて、書ければいいという時代ではない。やはり聞けて話せた方がいいに決まっている。先ほどスペイン語はRとlの区別以外は発音に苦しめられることはなかったと書いたが、裏を返せばRとlの発音には苦しめられたのである。

私がメキシコで働いていたとき、研究室に迷い込んできたイヌがかつての愛犬と似ていたので自宅で飼うことにした。このイヌはそのまま日本に連れて帰ってきたが、名前をミエールという。蜜色（color de miel）と現地の人が言ったのでmiel（蜜）と名付けたのである。散歩の度によく名前を訊ねられたが、一度でわかってもらえたことはほとんどない。私のlがRに聞こえ意味不明らしいのである。ある時聞き返されたのでまたかと思い、「ミエールだヨ」と日本語の語尾を付けてこたえ直したら絶句された。帰って辞書を引いたら「mierda＝くそったれ」とあった。絶句するはずである。またある時、職場から出かける用事があり運転手に「早く行こう」と声をかけたら「うれしい」と返事されて（たと思って）驚いたが、彼は「支度してます」と言ったのであった。「Me arreglo 支度してます」と「Me alegro私はうれしい」とを聞き違えたのである。どちらも日本語では、「メ・アレグロ」であるが、「レ」と「ロ」の発音がそれぞれLとRで入れ替わっているのである。

人間の脳は、さまざまな活動を司る分野に別れており、これを機能モジュールと呼ぶそうである。この機能モジュールは、その機能によって発達時期があり、幼少期から発達しているものとして運動や音楽や言語のモジュールがあり、これらは早期に教育を開始するのと長じてから始めるのとではその後の発展の度合いが異なるという。

諸君の中には、自分は将来どういう方向に進もうか、何を勉強したらいいのか、悩み、迷っている人もいると思う。しかしどんな道に進もうと、英語に限らず何らかの外国語を勉強しておくことは決して無駄にはならない。諸君の年代なら言語モジュールもまだまだ健在である。読む、書く、聞く、話すの4拍子揃った外国語を身につけられる年代である。そのうちにとか、まだまだ若いと思っているうちに、気がついたら歳をとっているものである。

愛してやまない東京農大畜産学科の学生諸君、電車の中でゲームをするといったような時間の無駄遣いは、どうかしないでいただきたい。月並みではあるが、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」という先人の言葉を一日一回は噛みしめ、ちょっとした空き時間を語学の勉強にあて、毎日短時間でもいいから倦まずたゆまず努めていただきたいと切に願う。

畜友会諸君

家畜生理学研究室教授
半澤　恵

平成二十一年度の畜友会活動は、学科六〇周年にあたり、記念講演会の開催、式典・祝賀会への参加など、例年にもまして充実していたことと思う。また、体育祭も久しぶりの上位入賞・・準優勝おめでとう。応援合戦もこれまで目にした中でも一、二を争う素晴らしい出来映えだった。厚木キャンパスの移転が決まった平成九年の第一〇六回収穫祭体育祭の応援合戦優勝、総合三位から始まり、優勝旗に川を渡らせるな！と当時の世田谷体育祭本部長に言わせた快進撃を思い出したよ。ぜひこれをきっかけにまた楽しく暴れて欲しい。

さて、しばらく寄稿文を書いていなかったので、手元にある二十冊余りの過去の「ふじみの」をひもといてみた。寄稿文の執筆は七年ぶり六回目だった。過去の文章に目を通し、相変わらずの自分に苦笑しつつ、キーボードを叩く。「ふじみの」は昭和三十六年に第一号を発刊して以来、平成五年の第三十二号まで毎年発刊していたが、ここで一旦途絶えた。平成九年に三年振りに発刊され、その後はまた毎年発刊されるようになった。発刊の再開したての第三三～三五号には、先生がたの寄稿文が見当たらない。刊行がふたたび軌道にのるまでの担当者の苦労が忍ばれる。

ここで体育祭に話を戻す。「ふじみの」から総合成績を昨年から過去に遡って抜き出してみた。第一一七回・・八位、第一一六回・・六位、第一一五回・・四位、第一一四回・・三位、第一一三回・・準優勝、第一一二回・・三位、第一一一回・・三位、第一一〇回・・五位、第一〇九回・・優勝、第一〇八回・・初優勝、第一〇七回・・三位、第一〇六回・・三位、第一〇五回・・七位、第一〇四回・・六位、第一〇三回・・九位、第一〇二回・・不明、第一〇一回・・十一位、第一〇〇回（以降、創立一〇〇年に因んで一回増えた格好に成っている）・・九位、第九八回・・五位、第九七回・・三位、第九六回・・四位、第九五回・・雨天の為、順位なし、第九四回・・一二位（最下位）、第九三・・一二位（最下位）となる。

厚木キャンパスでの収穫祭も昨年で一〇回を数え、一年生だけが通う静かなキャンパスの景色ももう一二年前になった。平成一〇年度、世田谷キャンパスに残っていた上級生は、何とか厚木キャンパスの一年生と交流を図ろうといろいろ苦労していた。平成一〇～一二年頃は、毎年、今年が最後の体育祭への参加になるかも知れないと危機感を持ち、そこで生まれた団結が好成績に繋がったのだと思う。今の諸君にあの時の先輩達の気持ちをリアルに感じることは難しいかもしれない。しかし、厚木キャンパス収穫祭の片付けもそこそこにわざわざバスを出してもらってまで、世田谷キャンパスに乗り込むのだから、みっともない姿は見せられない。そんな意地とも言える

気持ちは、今もあの当時と同じではないだろうか。ただ単に楽しく騒ぐのも良いが、意地を張って、悔しい思いを味わいながらも卑屈にならず、それを乗り越えて、「やるだけのことはやった。あとは悠々（ゆうゆう）と人知を尽くして天命を待つ。」という心境になって欲しいものだ。そういえば当時の長老の中には世田谷キャンパスでの体育祭参加に否定的だった方がいらっしゃった。中には、わざわざ敵地に乗り込んで行って、無様に負けるのを見たくない。と云わんばかりの声もあった。確かに当時の成績を見るとそう云われても仕方がなかった。それでも困難、危機感があるからこそ、それまで出せなかった力、出来なかった団結が生まれた。それでも長老の言にはいろんな意味合い・思いが込められており、今でもうなずける部分もある。しかし世田谷キャンパスで体育祭に参加する意味は今でも、いや今だからそこたくさんあると思う。それを敢えてここには記さない。みな、自分自身で考えて欲しい。

“癒し（いやし）”という言葉をよく耳にするようになって久しい。畜友会活動を通じて癒しを得ているヒトも多いかも知れない。個人的には気恥ずかしさを感じる言葉だが、前述したように悠々と構える心境なら、すでに癒されていると思う。ヒトに頼って、なんでもヒトのせいにしていると、楽ではあるが、本当の癒しは得られない。みんなでわいわい騒いでいると、そのときは楽しく気晴らしにもなるが、花火のように終われば現実が待っている。つまり気休めは本当の癒しにはならない。全力を尽くすことを恐れず、体にも心にもしっかり汗をかくことが大切だ。またどんなに一所懸命取り組んでいたとしても、仲良しグループの内輪の活動に止まるならつい甘えがでる。常に開いた集団としての活動を心がけて欲しい。畜友会の輪を畜産学科全体に広げる努力を今後もますます続ける必要がある。

畜産学科の学生、畜友会の一員であることに誇りを持ちなさい。畜友会活動が益々盛んになり、いつか、畜友会と聴いて、「自分には関係ない」と思う畜産学科学生がいなくなる日が来ることを願っている。

さて、諸君は農大畜産学科の学生として、貴重な時間と場所、そして権利から、対価に見合うモノを得ているだろうか？もっとも本当の成果はずっと先にならなければ分からない。何事にも揺るがない生き甲斐は、ひたむきな心にしか宿らない。前向きに、楽しく、明るく、中傷におびえることなく、粘り強い心で生きよ。

あらためて卒業諸君！卒業を心からお祝いし、畜産学科・畜友会でつちかった掛け替えの無い経験を糧に新天地で活躍されんことをお祈りする。

さらに新入生諸君！入学おめでとう！大学生の時にしか出来ないことがたくさんある。畜産学科・畜友会の一員として充実した4年間を過ごされんことを祈念している。

2010年新春

集う学友

4年間の大学生活

畜産学科　4年
小倉　久美子

4年間という学校生活は長いようで短かった。

入学した頃は、授業が多い上に教室の場所がわからず、授業の度にうろうろしていたのを今でも覚えている。また、友達も少なかったから心細い時もあった。そんな時、一つのサークルに出会い入ることになった。同じサークルには同学年の子が多かったから、それからは楽しい学校生活を送ることができた。サークルの先輩も優しくて楽しい方が多かったから本当に楽しかった。しかも、教職も取っていたからその中でも友達ができた。

2年生になってからは、学科の授業の上に教職の授業もあって、色々と忙しかった。でも、友達と助け合いながら、なんとか乗り越えられた。このとき、友達の大切さを改めて実感した。2年生の後期には、3年生になってから所属する研究室決めがあり、見事第一希望である家畜飼養学研究室への所属が決まった。

3年生になって、学科の授業、教職の授業、そして研究室と色んなことがあった。研究室では、分析実験をしたり、家畜の飼料配合設計を自分なりに考えたり、夏休みにはインターンシップで群馬県の育成牧場で研修をさせていただいたりと、とても充実した一年だった。

4年生になって、ほとんど授業はなくなり、卒業論文が主となった。卒論の実験を行いデータを出し、そのデータを論文にまとめる作業は思った以上に大変なことだった。また、6月には教育実習で3週間母校に行った。教育実習は、色々と大変なことがあったがとても楽しく、勉強になった。この教育実習のおかげで、将来は教師になりたいと思うようになった。

この4年間は、自分にとってすごく充実していて色々と学ぶことが多かった。農大で学んだことを将来に生かせるようにこれからも努力していこうと思う。

経験の大切さ

畜産学科　3年
廣瀬　悠人

農大に入学してもうすぐはや3年。月日が経つのは早いと言われますが、正しくその通りで入学してからというもの、電光石火のようで貴重な大学生活が残り1年だと思うととても惜しい気持ちです。

今まで楽しかった事や悔しかった事などを振り返るとつい昨日のことのように思い出されます。

私は普段から「経験」というものを大切にしていますが、それを実感できた思い出の一つに実習がありました。農大の富士農場で初めて家畜に触れたのを機に神奈川県内の動物園で実習させていただいたり、八王子にある酪農家や繁殖牛農家を経営している先輩のお宅でお世話になりました。動物園動物や家畜に共通している点は、動物を相手にするため、彼らがとる微妙な仕草や鳴き声、排泄物から気付く健康状態の変化など短期間では養えない日常からの観察力が重要であり、それを習得するのに実に困難を要する点でした。そして差異が見られた点は、前者は血統を維持して保護され、来園者への教育のツールとされる立場である一方で後者は、効率よく生産性を上げて利益を得るためのツールとされ、最終目的として消費者に食される立場であるという点です。したがって、飼育者がかける情が前者と後者で異なるのは仕方がないのかな。という印象を受けました。

八王子の農家では、畜産業を経営する上で問題となる臭気対策において、厚木市内に位置するコーヒー製造工場やチョコレート製造工場の廃棄物として不要となる豆やカカオの殻を堆肥に混ぜることで甘い香りが漂い、堆肥の嫌なイメージを払拭するほどで私は温かい堆肥の中で砂風呂のように寛いでいました。その上、成分がとても良質らしく、東京都内広域にその顧客がいるほどの人気だそうです。更にはヨーグルトやチーズの工場も併設されており、それらの製造・販売を通して観光牧場化を図るなど、オーナーの数々の斬新なアイディアに度肝を抜かれました。そしてこれらの実習は今後の進路選択の一つとしてとても貴重な経験となりました。

研究室では昨年の11月に代表者に就任したものの、仕事も未だに板に付かず、室員の皆さんには迷惑を掛けてばかりです。しかし、この役職も一つの大きな経験として最後まで駆け抜けたいと思います。

農大の演劇部の中で

畜産学科　2年
渡辺　未来

農大に入学してからもう2年が経ちました。あっという間の2年間だったと思います。その2年間の中で私の思い出深い事といえば、演劇部での事ばかりです。

私が大学に入学し、演劇部に入った理由は、周りの友達の影響でした。大学でできた友達が元演劇部だったり、演劇に興味がある子がいることが一番大きい理由でした。私は高校時代演劇をやっていましたが、大学に入って続けようとは考えていませんでした。その時友達の「一緒に入ろう。」という言葉が無かったら今頃何しているか検討もつきません。

演劇部には大きな公演が4つあることを知りました。その1つが主に1年生が役者で出る「若手公演」というものでした。確かに他の人よりは経験はありましたが、自分的にはリセットした新しい気持ちで取り組もうと考えていました。しかし当時はすごく緊張していて、悩んでばかりでした。でもそういう時には1年生同士で話し合ったり、先輩に相談したり、周りの人のおかげでこの公演を乗り切れたと思います。

部活外でも、みんな仲が良く特に1年みんなでイベントを企画したり、誕生日パーティーを開いたり、しょっちゅう遊んでいました。やるときはやる。遊ぶときは遊ぶ。とオン、オフの切り替えがあったからこそ続ける事もでき、一生懸命頑張れたと思います。

そして、一番大きな公演が収穫祭公演です。この公演では、知らない外部のお客さんも来るのですが、3年生が引退の公演でもあります。去年の収穫祭公演では、学長賞というすばらしい賞を頂き今年も二連覇を目指そうとみんなで頑張りました。しかし今年は貰うことができず悔しい思いをしました。これまでに終夜練習したり、大道具を作ったり、意見がぶつかりあうこともありました。それが公演が終わった瞬間、頭の中を駆け巡って自然と涙腺が緩くなってなんともいえない感覚になるのです。私はこの感覚が好きでした。

公演が近くなると、演劇をやめたくなって、公演が終わると演劇がやりたくなる。という不思議な気持ちになってしまいます。それは、演劇が好きだからと思いますが、一番はこの農友会厚木支部演劇部だからだと思います。そしてこれからも楽しみにしてくださる人のために続けていきたいと思います。

絶対忘れない、君と出会ったあの冬の日

畜産学科　1年
榊原　啓太

早いもので、私たち1年生がこの東京農業大学に入学してから、もう一年が経とうとしています。この一年間はいろいろなことがありすぎて、一つ一つの出来事を思い出すのが大変なくらいです。大学生活は学校での勉強以外にもサークル活動や農友会の活動、バイトなどやることがたくさんあって、これほど時間が足りないと感じたのは人生で初めてでした。そんな一年の中でも一番心の残っていて、私が最も力を注いだ行事は収穫祭・体育祭だと思います。収穫祭は大学に入る前に一度見に来たことがあって、その時に学生がすごく楽しそうに売店を出したり、ステージ企画をやったりしているのが印象的でした。だから、私も大学に入ったら絶対に参加しようと考えていました。

今年、私が収穫祭で主に関わったのは畜友会で毎年やっている家畜苑です。家畜苑というのは、富士農場から牛、豚、鶏、リャマといった家畜を連れてきて、収穫祭に来てくれた人たちに見たり、触れ合ってもらおうという企画です。準備は夏休みの終わりごろから始まりました。主な仕事は、連れてきた家畜たちを入れるための小屋づくりです。パイプの組み立て、屋根の張り付け、壁づくりなどの作業を2，3年生の先輩たちと一緒にやりました。収穫祭が近くなってくると先輩たちは夜遅く、ときには朝まで作業をしていてその意気込みに驚かされました。当日は、たくさんのお客さんが家畜苑を見に来てくれて家畜と触れ合い、みんな笑顔で帰ってくれたのでよかったです。

収穫祭が終わると、次の日にあるのが体育祭です。みんな収穫祭の準備から動きっぱなしなので、疲れているのは当たり前だけどそんな表情は全く見せずに体育祭に臨みました。体育祭で一番頑張ったのは、もちろん応援合戦です。応援合戦の練習は、体育祭の一ケ月前から、家畜苑などの準備の合間を縫ってほぼ毎日やりました。私もできる限り参加しました。本番はとても寒くて疲れもあったけど、そんなの関係なしに一生懸命踊りました。その結果、応援合戦部門で1位を取ることができたのでとてもうれしかったです。

来年は、私たちも先輩です。2年生と一緒に新入生を引っ張らなくてはいけません。私は副統にもなるので、より一層心を引き締めて来年の収穫祭・体育祭に臨みたいです。

畜友会だより

平成21年度畜友会事業報告

平成21年度6月1日～平成22年度5月31日

平成21年度

6月15日	平成21年度畜友会定期総会（於　トリニティーホール）
6月23日	特別講演会（於　トリニティーホール）
10月15日	第10回厚木キャンパス収穫祭　及び　第118回体育祭 畜産学科統一本部本部開き（於　レストランけやき）
10月30日	第10回厚木キャンパス収穫祭　前夜祭　参加
10月31日 ～11月1日	第9回厚木キャンパス収穫祭　参加 （家畜苑、研究棟アート、特別企画、宣伝隊）
11月2日	第118回体育祭　参加（於　世田谷キャンパス）
11月28日	畜産学科設立60周年記念式典及び祝賀会参加 （於　ロワジールホテル）
11月30日	第10回厚木キャンパス収穫祭　及び　第118回体育祭 畜産学科統一本部慰労会（於　レストランけやき）
12月14日 ～17日	厚木キャンパス冬季スポーツ大会参加

平成22年度

3月20日	畜友会誌「ふじみの」46号発行
3月21日	卒業祝賀会・卒業記念品贈呈（於　厚木キャンパス）
4月上旬	新入生歓迎会（於　レストランけやき）
5月下旬	厚木キャンパス春季スポーツ大会参加

平成20年度収穫祭特別会計収支決算報告

平成20年6月1日～平成21年5月31日

収入の部　　（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差　額	備考
一般会計より	700,000	700,000	0	
雑　収　入	1,000	26,479	△25,479	
収　入　合　計	846,229	871,708	△25,479	

雑収入：祝儀　　第9回収穫祭実行委員会　10,000円×2
ラウンドハウス　1,000円×2
世田谷キャンパス収穫祭6本部　4,000円
普通預金利息　479円

支出の部　　（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差　額
統一本部	400,000	383,326	16,674
特別企画	0	0	0
体育祭	70,000	17,649	52,351
宣伝隊	100,000	32,297	67,703
装飾	50,000	16,800	33,200
家畜苑	100,000	70,278	29,722
予備費	250,495	0	250,495
当期支出合計	970,495	520,350	450,495
次期繰越収支差額	△124,266	351,358	△475,624

上記のとおり報告する。
平成21年7月30日

畜友会会長　門司恭典 ㊞

監査報告書

畜友会会則第9章、第29条及び30条の規定に基づいて平成21年7月30日に平成20年度業務及び会計監査を実施致しました。

事業報告、通帳、出納長及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。
平成21年7月30日

平成20年畜友会監査委員
桑山岳人
野間口俊二
原ひろみ
佐々木裕哉

平成20年度収支決算報告

収支予算書（平成20年6月1日～平成21年5月31日）

Ⅰ．一般会計

収入の部　　（単位：円）

科　目		決算額	予算額	差　額	備　考
会費	新入生(21年)	1,187,000	1,800,000	613,000	※1)
	編入生(21年)	5,000	65,000	60,000	※2)
	過年度分(20年)	90,000	4,325,000	4,325,000	※3)
雑　収　入		503	0	△503	※4)
当期収入額		1,282,503	6,190,000	4,907,497	
前期繰越収支差額		1,446,753	1,446,753	0	
収　入　合　計		2,729,256	7,636,753	4,907,497	

※1）新入生：10,000円×118名
※2）編入生：5,000円×1名
※3）過年度分：10,000円×9名
※4）普通預金利息

支出の部　　（単位：円）

科　目	決算額	予算額	差　額	備　考
収穫祭援助費	700,000	700,000	0	
ふじみの印刷費	420,000	430,000	10,000	
卒業祝賀会費	180,000	180,000	0	
卒業記念費	270,934	400,000	129,066	
新入生歓迎会費	145,422	150,000	4,578	
消耗品費	24,945	30,000	5,055	
特別講演会費	0	30,000	30,000	
雑費	0	50,000	50,000	
予備費	0	4,888,663	4,888,663	
当期支出合計	1,741,301	6,858,663	148,699	
次期繰越収支差額	987,955	778,090	4,758,798	

特別会計予算

平成21年6月1日～平成22年5月31日

Ⅱ．収穫祭特別会計予算(案)

畜友会援助費

収入の部　(単位：円)

科目	予算額	前年度決算額	差額
一般会計より	700,000	700,000	0
雑収入	0	26,479	△26,479
前期繰越収支差額	100	269,814	△269,714
収入合計(A)	700,100	996,293	△296,193

支出の部　(単位：円)

科目	予算額	前年度決算額	差額
統一本部	400,000	385,315	14,685
特別企画	0	0	0
体育祭	70,000	17,649	52,351
宣伝隊	50,000	30,295	19,705
装飾	50,000	16,800	33,200
家畜苑	100,000	70,278	29,722
予備費	30,000	0	30,000
支出合計(B)	700,000	520,337	179,663
繰越収支差額 (A)－(B)	100	475,956	△475,856

農友会学科助成金

収入の部　(単位：円)

科目	予算額	前年度決算額	差額
畜産学科助成金	1,590,000	1,590,000	0
当期収入合計(A)	1,590,000	1,590,000	0

内訳　(単位：円)

科目	予算額	前年度決算額	差額
学科助成金	560,000	535,488	24,512
事務費	30,000	28,440	1,560
記録費	50,000	49,892	108
交通費	130,000	112,800	17,200
神輿代	120,000	118,687	1,313
パネル代	100,000	98,134	1,866
応援合戦・衣装代	130,000	127,535	2,465
学内装飾費	180,000	164,442	15,558
収穫祭体験企画費	850,000	799,951	50,049
鋼管リース代	180,000	173,481	6,519
運搬代	400,000	396,397	3,603
装飾代	270,000	230,073	39,927
合計	1,590,000	1,499,881	90,119

平成21年度畜友会予算(案)

平成21年6月1日～平成22年5月31日

Ⅰ．一般会計予算(案)

収入の部　(単位：円)

科目		予算額	決算額	差額	備考
前期繰越金		382,717		382,717	
会費	新入生(H21年)	2,170,000	1,185,000	985,000	※1)
	編入生(H21年)	50,000	5,000	45,000	※2)
	通年度分(H20年)	2,635,000	90,000	2,545,000	※3)
雑収入		0	3,445	△3,445	
収入合計		5,237,717	1,283,445	3,954,272	

※1）新入生：10,000円×217名
※2）編入生：5,000円×10名
※3）通年度分：10,000円×216名
7,500円×2名
5,000円×12名

支出の部　(単位：円)

科目	予算額	決算額	差額	備考
収穫祭特別会計繰入金	700,000	700,000	0	
ふじみの印刷費	430,000	420,000	10,000	
卒業祝賀会費	180,000	170,354	9,646	
卒業記念品費	300,000	242,193	57,807	
新入生歓迎会費	150,000	145,422	4,578	
消耗品費	30,000	23,311	6,689	
特別講演会費	50,000	0	50,000	
60周年畜産学科協賛金	500,000		500,000	
雑費	50,000	0	50,000	
予備費	2,847,717	0	2,847,717	
当期支出合計	5,237,717	1,701,280	3,536,437	

平成21年度畜友会役員

平成21年6月1日～平成22年5月31日

役職	氏名	研究室
会長	門司恭典	家畜繁殖学研究室
副会長	村上覚史	家畜衛生学研究室
副会長	鈴木敏郎	畜産物利用学研究室

・執行委員

委員長	3年	大谷敬直	家畜育種学研究室
副委員長	3年	宮川満里子	家畜飼養学研究室
	2年	柳原和馬	家畜飼養学研究室
書記	3年	上釜安貴	家畜衛生学研究室
	2年	梅村直美	家畜育種学研究室
会計	3年	高山紗恵	家畜衛生学研究室
	2年	杉山絵美	家畜飼養学研究室
渉外	3年	生田結花	畜産物利用学研究室
	2年	恒松数磨	家畜繁殖学研究室
企画	3年	廣沢竜次	畜産マネジメント研究室
	2年	石川絵美子	家畜衛生学研究室
庶務	3年	下山拓哉	家畜生理学研究室
	2年	蜷川友磨	家畜飼養学研究室
編集	3年	三宅美夏	家畜繁殖学研究室
	2年	菊地忍	家畜飼養学研究室
監事		桑山岳人	家畜繁殖学研究室
		原ひろみ	家畜生理学研究室
	3年	佐々木裕哉	家畜飼養学研究室
	2年	福田庄司	家畜衛生学研究室

第十回厚木キャンパス収穫祭・第一一八回体育祭 事業報告及び結果報告

【事業報告】統一本部

畜産学科統一本部の第10回収穫祭での活動は、収穫祭宣伝活動、研究棟アート、特別企画、家畜苑、櫓装飾、体育祭を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては先生方と連絡をとり、畜産学科統一本部の各部門及び第10回厚木キャンパス収穫祭実行本部、農学科統一本部、バイオセラピー学科統一本部、世田谷キャンパス13学科統一本部と連絡を取り合い、また、畜産学科統一本部をまとめ10回目となる厚木キャンパス収穫祭、第一一八回体育祭を成功させようと最後まで全力疾走いたしました。

本年度は一年生も25名入ってもらえて、総勢65名で効率よく作業を行う事ができました。

来年度は第11回を迎えるに当たり、本年度学んだことを糧とし、新たなメンバーと新たな目標に向かい、一致団結し、活動していきたいと思います。



特別企画

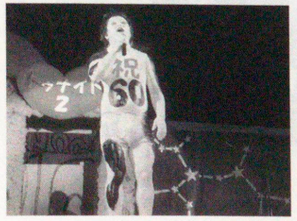
今年も多くの学生や地域の皆様に参加していただき、楽しんでいただけるステージ企画を特別企画本部が一丸となって作り上げました。

今年の収穫祭は、子供たちによろこんでいただける企画で「バルーンアーティスト」「大ちゃんRevolution」などを行いました。たくさんの子供たちに参加していただき、楽しんでいただくことができました。

また、一般の方にも参加していただける「これであなたも農大博士?○×クイズ」や、親子が一つになって参加する親子対抗のゲーム企画もあり、一般のかたでも楽しんでいただけるステージもできました。

そして、ウィンドオーケストラ部には華麗な演奏を、よさこいソーラン同好会には「大黒天'09」では力強い演舞を、学内より募集したバンドによる「らいぶ☆ふぇすた2009」では、熱いライブを披露してもらい、収穫祭を大いに盛り上げていただきました。

学生のメイン企画では、各学科対抗の「トゥナイト2」、農大のミスミスターを決める「NBC～Nodai Beuty Contest～」、農大の男の子だけど、女の子の心をもった人のNO1を決める「厚木ガールズコレクション」などの企画を行い、大いに盛り上がりました。



宣伝隊

宣伝隊。それは東京農業大学の収穫祭を知ってもらうために祭りに参加しウチワを配ったり各駅などに赴き宣伝活動を行う部門です。宣伝隊には衣装があり、東京農業大学厚木キャンパスのモチーフである「大根」と「鮎」の柄が入った浴衣に、臙脂色の法被を羽織り、足袋を履き宣伝活動を行います。

収穫祭までの宣伝活動は八月、厚木で行われる鮎祭りのDANBEフェスティバルから始まります。九月には、店回り宣伝活動、各駅でビラを配る各駅宣伝活を行います。収穫祭も間近になり、学内も盛り上がった十月には、全学応援団によるリーダー公開をするSATY前宣伝活動、厚木一番街を三学科の神輿を担ぎ練り歩く厚木パレード、伊勢原で行われる伊勢原畜産祭での宣伝活動があります。その中でも今年は、厚木パレードで初の試みである二周目を行い、二周目ではさまざまな野菜を持ち学科統一や六本部の方々で大根踊りを踊り、その後野菜の無料配布をしました。

収穫祭当日は午前午後、二日間で計四回の野菜の無料配布を行います。今年は大きなトラブルもなく、配り終える事ができました。地域の幼稚園や小学校の子ども達に絵を描いてもらい、講義棟に飾り様々な方に見てもらう「ちびっ子アートギャラリー」では、例年とは異なり一階も使え、広々と絵を飾れました。

来年度も皆様のご協力のもと、一人でも多くの方に収穫祭を知ってもらうため、宣伝隊一丸となって頑張ります。



神輿

神輿は、8月下旬から厚木一番街で行なわれる収穫祭の宣伝と、厚木の農大健児の意気を見せる“厚木パレード”に向けて製作を開始しました。

神輿は、学科の顔として収穫祭の宣伝や本祭を盛り上げる役割を担っています。

例年では、体育祭終了後「ファイヤーストーム」と言い、世田谷、厚木のそれぞれの学科の神輿を燃やす行事がありました。しかし、世田谷キャンパスグラウンドの人工芝への改修工事のため、今回から新たに“後夜祭”という行事が始まり、神輿は、収穫祭・体育祭を盛り上げる大きな責任があると言っても過言ではありません。

今年については、ファイヤーストームがなくなったこともあり以前まで考えられなかった屋根の部分を“五円玉”で黄金色に染めることができました。

その輝きは、どこよりも輝いていました。そして天辺の装飾にも五円玉で作った鳥をつけ、神輿を担ぎ練り歩いたとき、まるで生きた鳥が羽ばたいているようだったのが印象的でした。

来年の神輿も畜産学科らしいどの人にも印象が残るものを製作し、収穫祭の来場者が増やせるようにしたいと思います。





体育祭

体育祭は毎年収穫祭の後に世田谷キャンパスグラウンドにて行われます。当日は16学科揃っての入場行進で始まり、綱引き、先生頑張って、各学科対抗リレー、応援合戦など、様々な競技が行われます。今年からグラウンドが芝生になったことで、運動靴の徹底や競技内容にいくつの変更点がありました。

競技の部では、玉入れの失格や綱引き2回戦敗退もありましたが、チームワークと事前練習のかいもあり、各学科対抗リレー女子2位、台風の目、大玉転がし共に1位を獲得し、競技の部第4位をいただきました。

また体育祭の目玉の一つでもある応援合戦は、今年の畜産学科のテーマを「歌舞伎」にしました。大人数での迫力の演技、代表者2人によるど派手なメイクとカツラ、演技中の衣装替えなど、最初から最後まで目が離せない作品となりました。衣装には今年も畜産学科のトレードマークの牛柄を取り入れました。

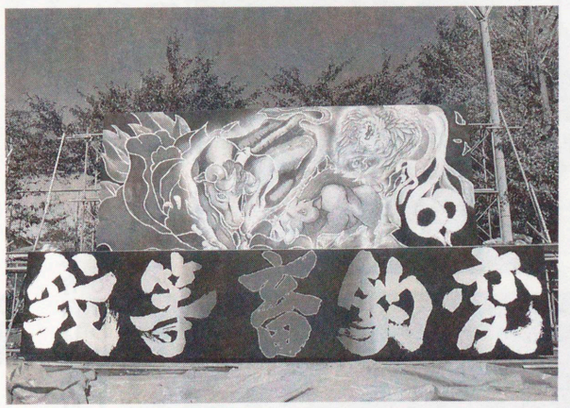
練習は決して楽なものではありませんでしたが、みんなの努力のかいもあり、第1位になることができました。

総合では櫓装飾の第4位も含め、見事準優勝することができました。先生方を始めとする学内の皆様ご協力もあり、畜産学科60周年にふさわしい体育祭になったのではないかと思います。本当にありがとうございました。

来年は今年以上の活躍をご期待ください。



櫓装飾



「櫓装飾」とは、体育祭で各学科ごとに応援席としてグランドに並べられる櫓に取り付けられる高さ約5.5ｍ、横幅約９ｍ、の大きな作品です。

この「櫓装飾」は世田谷キャンパスでは「パネル」と呼ばれ、体育祭での得点対象の一つになります。

本年度、畜産学科の櫓は昨年同様仕掛けと呼ばれる装飾を一切施さず「絵の技量のみ！」で勝負に挑みました。

家畜の代表であり今年の干支でもある牛を真ん中に描き、更に火の鳥と猪を並べ背景に今年の応援合戦の衣装をイメージした赤・紫・金で彩られた花を置きました。

また下段には今年度畜産学科が60周年にあたると言うことで、「これから畜産学科は変わっていく」と言う思いを込めて『我等畜豹変』と言う文字を入れました。

結果としては、惜しくも4位で表彰台を逃してしまいましたが、今年度の畜産学科櫓装飾部門では多くの方が手伝いに来てくれ、順位以上に大切な物を手に入れることが出来ました!!

来年度は、また今までに無かったような素晴らしい櫓装飾をみんなと作っていけたらと思います。

研究棟アート

研究棟アートとは、東京農大の研究棟の壁一面に巨大な絵を掲げ、収穫祭が間近であることを知らせ、より多くの人に来ていただきたいという宣伝のために作られたものです。

この絵は縦15メートル横1.2メートルの白い布を11本つなぎ合わせることによって出来上がります。その大きさは厚木市文化会館からでも確認できるほどです。

今年も昨年同様、校外から見える場所に2枚、校内から見える場所に1枚の合計3枚の絵を掲げました。9月の下旬から作業を始め、多くの方々に協力していただいたおかげで大きな怪我や事故もなく作業をスムーズに終えることができました。しかし本祭1週間前に掲げた絵は悪天候だったことも重なり、校外から見える場所に設置した2枚が設置から約3日で破れてしまい、本祭2日目には学内から見える方の最後の1枚も強風にあおられ破れてしまいました。最初に破れた2枚のデザインは急遽パネルに書き直し、家畜苑に飾らせていただきました。

来年度は今回の反省点をしっかりと踏まえ、改良に改良を加えより良いものを作っていきたいと思います。また今回はパネル展示という新しい学内装飾も行うことができ、これについても好評をいただいたので、来年度もさらに発展していければと考えています。



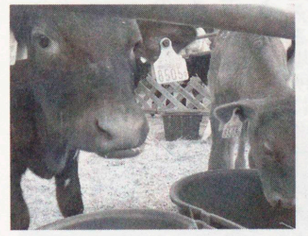


家畜苑

家畜苑とは来客していただく皆様に、家畜と触れ合うことで命を感じていただく場であります。単に可愛い動物の展示ではなく、経済動物として利用していることを理解していただくことが目的であります。そこで、展示家畜の品種説明、また誕生から消費者へ届くまでの過程について大人用と子供用に絵を用いながら分かりやすくまとめました。これらの展示を参考にしたクイズやスタンプラリーを行い、楽しみながら家畜について学べるように工夫しました。他にも、リヤマとの記念撮影、木製ホルスタインによる疑似搾乳体験、牛のブラッシング、鶏の孵化の展示や雛を手にとってもらうイベントを行い、『家畜』と共に『命』を感じてもらえるように工夫しました。

今回の家畜苑への来場をきっかけに、『家畜』を少しでも理解してもらうと共に、家畜の命と引き換えに私たちの生活があることを感じてもらいたいです。





【結果発表】

体育祭

総合順位 ……準優勝
競技の部 ……第4位
台風の目 ……第1位
大玉転がし ……第1位
各学科対抗リレー（女子の部） ……第2位
櫓装飾の部 ……第4位
応援の部 ……優　勝

特別講演会　概要

日本の畜産の現状　～現場から私達へ～

明治製菓株式会社　東京支店長
米山まさみ氏

・明治製菓とは？
　イソジン（医薬品）、ペニシリン（動物医薬品）等の医薬品やチョコレート等々の製造
・研究対象
　微生物などのミクロの世界を観察し研究している
・現在の畜産の現状
［乳　牛］農場数、頭数ともに減少傾向にある
［肉　牛］飼養農場数は減少しているが、頭数は横ばい
［養　豚］飼養戸数は減少しているが、頭数は横ばい
［採卵鶏］関東、愛知、広島、南九州→全国的ではあるが、農家数は減少傾向
［ブロイラー］秋田、南九州が主
・現状を常に取り巻いているミクロの世界とマクロの世界
〈ミクロの世界〉
＊人畜共通伝染病
　例）高病原性鳥インフルエンザ…症状が多種多様なうえ人に感染することが判明
　⇓動物をいかに健康に飼育管理していくかが大切
＊レプトスピラ感染症
　繁殖関係に大きく影響を及ぼし日本に潜在的に存在しているものだが近年再び関連しているという疑惑が浮上
＊以上ふまえて今後の対策（課題）
　安全な産物を提供するために適切な情報公開と欧米諸国との国際間の協力体制を駆使して常に対策を講じて、情報を得ていかなければならない。
〈マクロの世界〉
＊日本の畜産物の輸出状況
　アイスクリーム、乳製品牛肉（香港増加傾向）豚肉、クズ肉
　⇓ここ10年でBSEの影響を受け変動が激しい
＊国際状況
　ASEAN諸国において画期的な発展が見受けられる。タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、特にタイは日本に対して鶏肉・豚肉を輸出の柱としている。また薬を使わない飼育に加え、栄養士、獣医が経営者となり展開している。

まとめ

日本は世界の畜産の国際情勢も見つめていくと考えも広がり更に視野も広がっていく。
欧米の最先端の技術を持っているアジアの畜産現場で日本の技術や知識（栄養士や獣医）がどのように活かせるのか、またそこで学んだことを日本の畜産においても活用できるのではないか等、今後の日本は国内だけでなく、グローバルな展開を考えていくとよい。

東京農業大学農学部畜産学科
“畜友会”会則

第一章　総則

第一条　本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。

第二条　本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。

第三条　本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章　業務

第四条　本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。

(1)会員相互の親睦
(2)講習会、研修会及び研究会発表の開催
(3)機関紙「ふじみの」の発刊
(4)大学行事（収穫祭等）への参加
(5)その他第三条に付帯する業務

第三章　会員及び役員

第五条　本会の会員は次の通りとする。

(1)正会員　畜産学科の学生
(2)特別会員　畜産学科教職員ならびに大学院生
(3)名誉会員　役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

第六条　本会は次の役員を置く。

(1)会　長　1名
(2)副会長　2名
(3)執行委員
委員長　1名
副委員長　2名
書記　2名
会計　2名
渉外　2名
企画　2名
庶務　2名
編集　2名
監事　4名

第七条　(1)会長は会を代表し、会務を総理する。
副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代理とする。
また1名は総務を他の1名は会計を分担する。
(2)委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。
副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条　(1)本会には連絡委員を置く。
(2)連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、各研究室から1名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡委員会でその意見を反映するとともに執行委員会の決定事項を会員に伝達する。

第九条　役員および連絡委員の選出および任期
(1)会長は畜産学科長がこの任にあたる。
副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の中から推薦し、総会において決定する。
(2)執行委員は、執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、ほかの1名を2年次生より選出するものとする。
尚、監事4名の内の2名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事は他の役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。
(3)執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。
(4)連絡委員は、各学科〔1、2年次〕および各研究室〔3、4年次〕で協議のうえ選出する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

第四章　総会

第十条　(1)総会は定期総会とする。
(2)総会は正会員および特別会員を持って構成され、本会の最高意思決定機関とする。
(3)定期総会は原則として年一回、六月に会長が招集し、開催する。
(4)臨時総会は会長が必要と認めた場合ならびに正会員および特別会員総数の四分の一以上の同意を得て開催目的および招集理由を記載し、会長に提出する時招集開催することができる。

第十一条　総会開催は七日以前に公示しなければならない。

第十二条　(1)総会は正会員および特別会員の四分の一以上の出席により成立する。
(2)委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。
委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の五分の一を上限とする。
(3)委任状の検査は執行委員が行う。

第十三条　定期総会は次の事項を決議する。
①前年度の事業報告および収支決算報告
②次年度の役員
③次年度の事業計画および収支予算
④会則の改正
⑤その他

第十四条　総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条　議長は書記2名と議事録署名人2名を選出する。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条　総会の議決は出席者の過半数によって議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条　総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章　執行委員会および連絡委員会

第十八条　(1)第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。
(2)会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条　執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条　執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条　執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十二条　連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。
(1)連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。
(2)連絡委員会は次の事項を処理する。
①執行委員会で決定した事項の伝達。
②一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。
(3)連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条　本会の事業年度および会計年度は六月一日に始まり、翌年の五月末日までとする。

第六章　会計

第二十四条　本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以ってこれにあてる。
但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五条　(1)会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学生は学年に応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取り消しの場合はその限りではない。

(2)会費は会長および委員長連名で毎年4月に入学対象者に対して請求するものとする。

第二十六条　本会の会計は、所定の形式に従って処理し、決算はすべて監事の監査を経なければならない。

第七章　機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条　(1)第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。
(2)編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。
(3)編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。
(4)編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もって執行する。

第八章　大学行事への参加

第二十八条　(1)第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。
(2)設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。
尚、内規は別に定める。
(3)委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章　監査

第二十九条　監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十条　監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。
尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

第十章　付則

第三十一条　本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条　本会則は前規約を改正し、平成一〇年二月二〇日よりこれを試行する。

畜友会収穫祭内規

第一章　目　的

第一条　本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条　収穫祭は東京農業大学農友会厚木支部収穫祭規定第1条および第9条に基づく収穫祭に参加する。

第二章　組織および役員

第三条　収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

1、統一本部
2、宣伝隊実行本部
3、特別企画実行本部
4、学内装飾実行本部
5、家畜苑実行本部
6、体育祭実行本部

第四条　実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

会　長	1名
副会長	2名
統一本部顧問	若干名
統一本部委員長	1名
統一本部副委員長	1名
統一本部会計	1名
各実行本部顧問	若干名
各実行本部責任者	各1名
各実行本部副責任者	各1名
各実行本部会計	各1名

第五条　(1)会長は畜友会会長がこれにあたる。副会長は畜友会副会長がこれにあたる。
(2)統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より会長がこれを委嘱する。
(3)統一本部委員長は畜友会執行委員がこれにあたる。統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、会長および各実行本部顧問の了承を得てから委嘱する。
(4)統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

第六条　(1)会長は会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはこれを代理する。
(2)統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

(3)統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者と協力して各本部の円滑な運営活動を助ける。
(4)各実行本部責任者は各実行本部の運営を担当する。各実行本部副責任者は各実行本部責任者を補佐すると共に各実行本部担当者と協力して円滑な運営・実施にあたる。

第七条　実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。
(1)6本部会議は会長、副会長、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部会計ならびに各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部会計で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。
(2)各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部責任者がこれを務める。

第三章　会　計

第八条　収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。

第九条　予算は畜友会執行委員会で編成し畜友会定期総会で承認を得る。

第十条　会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

第十一条　決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章　付　則

第十二条　本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会に諮った後、畜友会定期総会で承認を得る。

第十三条　本内規は平成15年6月1日よりこれを実施する。

各部門委員長より

へなチョコ委員長の頑張り。

統一本部委員長
3年　大谷敬直

今、思えばあっという間の三ヶ月だった。しかし、充実かつ楽しい三ヶ月だった。去年は完璧ダメ人間だった自分も同級生をはじめ、個性が溢れ出過ぎてる現2年生、初々しい新入生がいたからこそ自分はここまでやってこられたんだと収穫祭が終って気づいた。

今年は畜産学科創設60周年という事もあり、各部門の委員長さんをはじめとする役員の人はプレッシャー、責任感のような物が圧し掛かっていたと思う。もちろん、自分もその一人です。しかし、決して自分は「俺は頑張った！」と胸を張って言えない。むしろ、「俺はみんなを上手くまとめていたのか？」「みんなのモチベーションを維持・持ち上げられていたのか？」と様々なことを考えてしまう。というのも、みんなが個々に自分の仕事や役割、立場を考えてベストを尽くしてくれたからこそ、今年の収穫祭の完成度の高さ、体育祭では「準優勝」という名誉ある順位が取れたのだと思う。ただ、自分はこの畜産学科統一本部の「楽しさ」「やりがい」を後輩たちに伝えられた自信はある。そう考え始めたら、統一委員長なんて役職はそれを伝えられたらそれで良いように思えた（笑）

この畜産学科統一本部に入って、たくさんの事を学び、自分に足りない物をたくさん気付かされた。その中でも「チャレンジ精神」と「責任感」は強く感じ、学べた。この3～4ヶ月で学んだ事はこれからの不景気の社会の中で必ず生かせると思います。むしろ、生かします！



最後に、畜統の三年生！こんなダメ人間について来てくれてありがとう。また、いつか今年の収穫祭・体育祭の出来事やバカやった事を笑って話したい。（笑）大学を卒業しても、いつか皆で飲もうぜ！！

二年生！頼りない委員長でごめんな！でも、来年は君たちの年だ！やりたい事を諦めず、チャレンジし続ける事が悔いのない楽しい収穫祭・体育祭に導いてくれる。だから、諦めずに己の道を突き進め!!悩んだら、誰かに相談しろ！そういう事を自分から起こす事で仲間意識は今以上強くなるハズだ！

一年生！部門も決まり、ウキウキ・ワクワクしている人もいれば不安でいっぱいの人もいると思う。でも、これだけは言える。「誰一人欠けてはいけない。」最高の収穫祭・体育祭を作り上げるには皆の「フレッシュさ」と「個性」が欠かせないからだ。新二年生となり、学業も辛いかもしれないけれど皆耐えてきた試練だ！諦めずに畜産学科統一本部を続けてほしい。

そして、新入生へ！ご入学おめでとうございます。畜産学科統一本部とはサークル紹介では伝えきれない感動や楽しさがたくさんあります。是非、参加してほしい！そのフレッシュさで僕たちと一緒に畜産学科を新しく楽しい学科にしていこう!!

また、門司学科長をはじめとする諸先生方におかれましては、今年1年間大変なご迷惑をおかけした事と思います。この場を借りて感謝・お礼を申し上げます。

みんなのおかげ

特別企画委員長
3年　吉田武史

自分にとって、２００９年は大学生活の中でとても印象に残る1年間でした。第10回収穫祭特別企画本部が動き出したのは3月のことでした。総務、農学、畜産、バイオセラピーのみんなが集まり、『今年は10周年どんなステージにしよう？』と会議をしていたのを、つい最近のことのように思い出せます。

先輩から法被を渡され、今年度の特別企画委員長として、初めは不安でいっぱいでした。去年、課題に残ったことを活かし、２００９年は去年と違ったステージを造るためにはどうしたら良いか？新しく入ってきた2年生にどうしたらトッキの仕事をわかってもらえるか？どうしたら観客・参加者含めみんなが楽しんでくれるか？

時間とともにプレッシャーに押し潰されそうになりました。それでも、トッキを最後まで楽しくできたのは、特別企画本部のみんながいて、企画に力を貸してくれる人がいて、統一の四年生の先輩がいて、そして何より・・・一緒にいると楽しくて、暖かい統一のメンバーと相棒のゆーまがいてくれたから、楽しくできました。

ゆーまとは、共に笑い、喧嘩をしました。楽しいことばかりではなかったけれど、今となっては良い思い出です。

相棒には、特別企画の仕事内容をほぼ教えたつもりです。２０１０年は、相棒が頑張ってくれることは間違いないと思います。そして、相棒に一言「一緒に作業が出来て、楽しかったよ!!ありがとう！」

２００９年のステージ企画は、自分の力で造ったのではなく、企画を造る段階で、自分と知り合ったすべての人の力のおかげで造れました。そのことで、参加してくれた人・観客の笑顔を見れたときのことは、決して忘れることのできない思い出となりました。

最後になりましたが、第10回収穫際特別企画本部を支えて頂いた参与の先生方、ならびに収穫際実行本部、農友会各支部の皆さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。





みんなで支えあった収穫祭

宣伝隊隊長
3年　生田　結花

中学・高校と文化祭などの学校の行事に役員として積極的に参加しなかった私が、大学では参加してみようとこの畜産学科統一本部に入ってから、3年という月日が経とうとしています。

今年は厚木キャンパス収穫祭10回記念、そして畜産学科創立60周年記念としてふさわしい収穫祭をみんなでつくりあげていこうと11月の収穫祭のために、宣伝隊は2月頃から予算を組み、5月からは毎週会議を重ね、張り切っていました。

しかし、言われた作業をやり、指導する立場になかった去年と違い、今年は自分たちが物事を進める立場という新たな責任感も増え、去年にはない新しい企画も多く、そして人前でしゃべるのが苦手な私は挨拶もまともにできなかったりと、苦労の連続でした。

時にはぶつかり合ったりもしました。本当にどうしたらいいのかわからず、解決するまで時間がかかったこともありました。

9月からの店回りや土日の各駅宣伝、各イベントごとに事前々会議、事前会議を重ね、スケジュールを練り、資料を作りました。収穫祭のビラ作りはコピー音が耳に残るほど印刷しましたし、ビラは作ったビラ8万枚に対し、種をつけるので、1袋13粒などと飽きるほど種つめもしました。

9月中旬から毎日朝10時にプレハブに集合して作業し、夜中や明け方に帰る毎日がいつのまにか当たり前になっていました。



そして、つらかったと思っていた毎日は楽しい日々に変わっていき、あっという間に過ぎてゆきました。

厚木パレードやSATY前宣伝活動、本祭野菜無料配布のロープ練習、みんなで食べる炊き出し、個人練習も頑張った体育祭練習などなど、あんなにつらかったことや楽しかったことをもう二度と同じ仲間と同じ時間で過ごすことはないと思うと本当に寂しいです。

統一本部のなかでも宣伝隊は3学科が協力して活動し、農大の『顔』として学外に出向き、収穫祭を1人でも多くの方に知ってもらうため、そして来場者数5万人突破を目標として頑張ってきました。

私が今年こんなに頑張れた理由の一つは、去年の先輩たちの涙です。収穫祭の来場者数発表の時の5万人を達成できなかったとわかった瞬間の先輩たちの涙は、今でも胸に焼き付いています。

そして、もう一つの理由は共に1年生の時から収穫祭に向けて頑張ってきた畜統のみんなや、2年生の時から宣伝活動をしてきた仲間たちがいてくれたことです。上手く言葉で言い表せませんが、杏ちゃんと梅くぼには本当に感謝しています。

1人でも欠けたら成り立たない宣伝隊。そして、畜産学科統一本部。私はこの素晴らしい仲間たちと出逢え、共に活動することができたことを誇りに思います。この思い出は本当に一生の宝物です。

今年も残念ながら5万人の目標を達成することはできませんでしたが、自分たちでやれるだけのことはやれたと思います。第11回収穫祭は見守ることしかできませんが、翔太と悠!!3人で応援してるから新しい2年生4人と頑張ってね!!

最後になりましたが、第10回厚木キャンパス収穫祭を支えてくださいました参与の先生方をはじめとする諸先生方、並びに収穫祭実行本部の皆様、研究室の皆様、この第10回厚木キャンパス収穫祭を無事に終えることができましたことをこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

神輿

神輿隊長
3年　下山　拓哉

まず、畜産学科60周年、厚木キャンパスでの10回目の収穫祭という節目の年に、収穫祭を宣伝する部門の中でも生徒、先生方の収穫祭に対するモチベーションを盛り上げ、来場するお客様に農大を畜産学科を知ってもらうため全力で神輿という部門にたずさわれて本当によかったと思いました。

教わった去年。教えた今年。教えて分かる教える難しさ。先輩の偉大さ。言葉で伝えたことをカタチにしてくれる後輩の凄さ。色々と学んだ神輿でした。学んだことは直接言葉にしてしまうと価値がなくなる。だから後輩には伝わりにくかったかもしれません。少しでも心に残る事があればきっと自分の将来に役立つ。そして、8～11月のたった3ヶ月で自分の駄目な部分、良い部分が分かり、それを＋に変われるのが神輿、統一だと思いました。

妥協無き今回の神輿に少しでも手伝ってくれた方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。厚木パレードないし、神輿の移動だけでも統一の皆の力がなければ成しえなかった事です。誰もが認めてくれた今回の神輿。『凄い』の一言を色々な人から言ってもらい、辛かった日々や疲れなんか全部吹き飛んで、作ってよかったと最高の気分でした。厚木パレード、学内での展示、白夜光すべてにおいて自分ら4人の作った神輿が一番だと自信を持って言えることが出来ました。

だけど改善することはあると思います。ただ伝えるのは“伝承”であり手を加える事こそが“伝統”です。素晴らしい伝統を作って下さい。

最後に、自分のわがままに愚痴一つこぼさず、シモさーんとしたってくれ、付いてきてくれた3人へ。本当なら引っ張っていかなければならない立場だったけど、何度となく3人には助けられました。この3人でなければきっと神輿は完成しなかったと思う。どんな時でも元気な3人との3ヶ月間はとても大切な思い出です。庄司、えみ、ゆきえ、本当にありがとう。





ありがとう

体育祭委員長
3年　佐藤　晴香

畜統で過ごした3年間は、私の二十年の人生の中で最も辛く、苦しく、熱く、楽しく過ごした時間だったと思います。

1年生の頃、私は始めから体育祭に入ろうと決めていた訳ではありませんでした。1ヶ月間でいくつかの部門を見学したものの、意志の固まらないまま迎えた初めての体育祭。当時3年生だった美和さんと瑞恵さんはラクロスサークルの先輩でもあり、私の大好きな先輩でした。そんな先輩の涙を、体育祭で私は初めて見ました。迷いは一気に消えました。体育祭に入ろうと、そして先輩達の成し得なかった優勝の夢を実現しようと決心しました。

2度目のシーズン、私は体育祭という部門の難しさを思い知りました。昼夜問わず連日連夜のダンス練習に、思うように進まない衣装作り。肉体的にも精神的にも追い込まれ、体育祭以外の部門ならもっと楽に収穫祭を迎えられたのではないかと思ったことさえありました。それでも頑張れたのは委員長の佑太さんがいたからです。佑太さんはいつも私が帰った後も晩くまで一人ダンスを研究したり、人の見ていないところで努力しているのを知っていました。先輩の方がずっと大変なのだから、私も頑張らなければという思いで、なんとか体育祭まで乗り切ることができました。



そして3度目、私にとって現役最後の収穫祭。私は自分の中で一つの目標を決めました。それは「たとえどんなにつらくても、全てを笑って受け入れること」です。しかし、実際はそんな仏のような人になれる訳もなく、私の心の中は不安でいっぱいでした。その不安の一つが、相方の悠喜でした。悠喜は夏休み前の活動に1回しか出席しておらず、私は本気で辞めてしまうのではないかと心配しました。そんな時に支えてくれたのが、後輩のけみちゃんとまこちゃんでした。二人の天然トークにはいつも癒されていました。9月の終わりには悠喜も無事に復帰し、活動も本格的になり、そこからは怒涛の一ヶ月でした。正直、必死すぎてあまり記憶がありません。ただ確かなことは、たくさんの人の支えがあったからこそ、今の私があるということです。様々なアドバイスを下さった先生方、全力で競技に臨んで下さった研究室をはじめとする畜産学科の皆様、最後までご迷惑をおかけした先輩方、良き友であり良きライバルだった他学科の友達、いつも力を貸してくれた畜統のみんな、最後まで付いてきてくれたまこちゃん・けみちゃん、そして、2年間一緒に戦い抜いた悠喜。みんなからもらった「ありがとう」は、一生私を支え続けてくれることでしょう。

最後に、みんなにどうしても伝えたかったことがあります。体育祭の日はバタバタしていて、きちんと言えなかったと思うので。「本当にみんな、ありがとう。」

みんながいたから…☆

櫓装飾委員長
3年　宮川　満里子

終わったぁ～!!!

全てを終えて出たこの言葉は、無事にすべてやり終えたという充実感と、もうみんなと一緒に作業できないんだ…という寂しさの2つの気持ちが混ざりあった言葉でした。

やぐらーマンになって2年目の今年は『櫓委員長』を務めさせてもらいました。

委員長として引っ張るどころか、みんなに助けてもらってばかりだったな…(汗)

そればかりか、櫓のパネル装飾は年々立体やからくりなどの仕掛けが施され各学科のレベルが上がっており、先生方からも仕掛けをした方がいいという意見をいただいたのだが、私は仕掛けではなく、画力だけで勝負したかった。そんな私1人の頑固でわがままな意見もみんなは何も言わずに賛成してくれて、仕掛けなしで1位をとることを目標に『妥協しない』『自己満』『最高に気持ち悪いを目指す』で毎日作業に取り組んだ。

私にとって畜統で活動する9～11月の3ヶ月間は、毎日みんなと時間をともにできる本当に楽しくて幸せな期間。今年もそれが楽しみで楽しみで…♪♪



やぐらーマンのみんなには毎日終夜作業でいい迷惑だったかもしれないけれど(笑)

櫓は体育館下のバイク駐輪場で作業しており、他部門から少し離れていてちょっと暗いところにあるが、今年も他部門のみんなが入れ替わり立ち代りで手伝いに来てくれていつもにぎやかで明るかった。また、みんな自分の作業が終わっても一緒に最後まで残ってくれて本当に心強く、とにかくみんなの笑顔があふれる場所で作業できるのが本当に幸せだった。

気付けば毎日のように1年生や他部門のみんなが手伝いに来てくれて作業はびっくりするほど順調に進んでいったが、自分は口を出すだけで全然作業に参加してなかった…汗

完成式を2日後に控えたころから『畜』文字のふちに金紙を貼る作業をみんなに頼み1人でやらせてもらった。しかしその作業が細かすぎて、なかなかはかどらずに何度も挫折しそうになったが、そこでも支えてくれたのは統一のみんなでした。なにも言わずにそばにいてくれた。一緒に励まし合いながら終夜してくれた。みんなの温かさに触れて、何度一人で嬉し泣きしたか…笑

学年関係なく本当に仲が良くて、本当にいい仲間に恵まれたな…★そんなみんなのおかげで畜統に入って本マに良かったって心から思えた・・

みんなありがとう!!!

櫓の結果は残念ながら目標だった賞はとれなかったけど、私の中では文句なしの『1位』でした。やりたいことは全部やったし後悔はない!!

ぷっか！ゆき！梅ちゃん！来年は3人力合わせて2年生を引っ張って今年以上に『最ッッ高に気持ち悪い』作品を作ってね★

我等畜豹変☆

ART

装飾委員長
3年　金井祥子

私が装飾に入った理由は実に簡単で、ただ単にあの大きさの絵を描いてみたいと思ったからです。

絵が描きたいと思い統一本部に入ったものの、周りは知らない人ばかりで同じ部門の人も誰一人として知り合いではないところからスタートしました。

一年生の時は体育祭にしか参加せず、二年生になってもなかなか作業に参加しないような不真面目で自由奔放な私が委員長になり、同じ学年のあきちゃん、そして後輩達は本当に苦労したと思います。とりあえずすみませんでした（笑）



作業が始まってからというもの、上手くいかないことばかりで幾度となく心が折れました。二枚目が破れた時には本当に修復不可能なぐらい心がぽっきり折れました。その時に支えてくれたのが装飾のメンバー、統一の仲間、そしてよさこいの仲間…あと「チャンスはピンチの顔をしてやってくる。」という私の好きな作家の言葉でした。

結果だけ言えば、今年の装飾は三枚の垂れ幕は全て破れてしまったため収穫祭の宣伝活動が出来ずに失敗という形になると思います。しかし、「失敗は成功の元」！今年失敗したことを今後に活かせば良いだけのこと。そして、「チャンスはピンチの顔をしてやってくる」もので、今年の家畜苑に飾らせていただいたボードもそのひとつです。ピンチの時って意外にいいアイディアが浮かぶのですよ？（笑）

最後の最後までふざけた委員長ですみません（笑）でもみんなで過ごした日々は本当に充実していて、最高に楽しかったです。あきちゃん、忍ちゃん、ゆーり、つね！みんなが支えてくれたお陰で、心置きなく大好きな絵が描けました。本当にありがとう！



人生最大の出来事。

家畜苑委員長（苑長）
3年　森本剛司

記念すべき年、畜産学科60周年、そして第10回厚木キャンパス収穫祭で家畜苑の委員長を務めさせていただきました。今回の家畜苑は大成功!!と胸を張って、声を大にして言えると思います。今まで見たこともない最高の門を作ったのは畜産学科2年の石川君と糟谷君です。パイプを組み立てて家畜の小屋を建てる際、中心になって指示、作業したのが3年の広沢君です。その小屋の壁にはってあった、まるで本物のような絵を描いたのは2年の畠山君です。今年も大反響を呼んだひよことの触れ合いコーナーを囲むための柵や、鶏を入れるためのケージを作ったのは2年の長谷川君です。苑内の中心にありました、顧問の先生方の名前や家畜苑のメンバー1人1人の名前を筆で描いたバックボードを作ったのは3年の高山さんです。スタンプラリーやクイズの景品にしたプラスチック板をオーブンで温めて作るキーホルダー約300個を中心になって作ってくれたのは3年の三宅さんです。顔だしの写真を撮る板や看板、説明など、家畜苑内を華やかに彩ってくれたのは3年の青木さんと2年の菊地君です。今回は装飾が作ってくれた絵を受付のバックに置きました。存在感のある絵がより一層盛り上げていました。そして、今回の家畜苑の目玉ともいうべき、体のライン、首の角度、乳房の具合を事細かに再現した木造の牛を作っちゃったのは3年の太田君と佐々木君です。木造の牛は本当に人気者でした。子供がアレルギー体質で牛などの動物に直接触れられないので、喜んで何回も搾乳体験をやってます。というような声も聞くことができました。今回の家畜苑はみんな妥協という言葉を捨て頑張り続けました。だれか一人でも欠けていたら、だれか一人でもメンバーが違っていたら今回のような成功はありませんでした。自信を持って言えます。自分にとって委員長という立場はやりがいがあり過ぎました。家畜の借用、先生とのやりとり、パイプの搬入、家畜の搬入など、自分が動いて話をしなければ前に進まないことだらけでした。今回を通して自分の頭の中に「責任感」というものがかってに保存されました。この体験はこれから先の人生において役に立ち続けると思います。

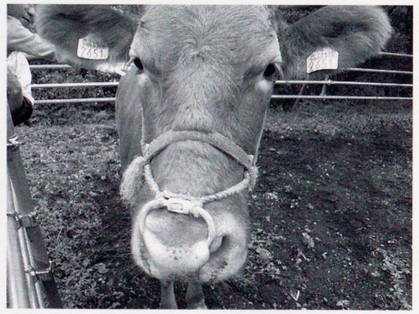
2年生!!!頑張れ!!あとはまかせた!

3年生!!!お疲れ!!すっごい楽しかった!















編集後記

今年も、第46号目となる『ふじみの』を発行することができました。

第10回収穫祭も大勢の方に来客していただき、より地域に密着した行事になってきたことと思います。

また、バイオセラピー学科の増設から4年が経ち、3月には初めての卒業生が旅立ちます。農学科・畜産学科・バイオセラピー学科の3つの学科が協力しあい共に切磋琢磨していくことを期待しています。

この「ふじみの第46号」が、今後の畜産学科の更なる発展を担うものになれば幸いです。

最後になりましたが、この一冊を発行するにあたり、お忙しい中原稿を書いて頂いた先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方に深く御礼申し上げます。

編集委員長　三宅　美夏

平成22年3月20日　発行

"ふじみの"第46号

ふじみの執行委員　三宅　美夏
菊地　忍
漆畑　優李

発行者　神奈川県厚木市船子1737
東京農業大学農学部畜産学科畜友会
電話046(270)6228

印刷所　神奈川県厚木市栄町1-15-15
有限会社藤野印刷所
電話046(221)3029

表紙写真撮影者：畜産学科　佐藤光夫先生



TOKYO NOUGYO DAIGAKU CHIKUSAN-GAKKA

